北九州市立大学　地域共生教育センター

ラボ・レター

［活動報告書 2019］

この活動報告書は、421Lab.（ラボ）から地域の皆様と共に歩んでいきたいという
思いを込めたお手紙（レター）のように作成しました。
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、私たちからの
ラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発　行：北九州市立大学　地域共生教育センター（421Lab.）
発行日：2020年3月
編　集：北九州市立大学　地域共生教育センター（421Lab.）
協　力：プロジェクトに参加いただいた多くの皆様
制　作：株式会社ゼプロス

421 Lab.

北九州市立大学　地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4ー2ー1（北方キャンパス2号館1階）
［TEL］093ー964ー4092　［FAX］093ー964ー4088
［E-mail］info421@kitakyu-u.ac.jp
［OPEN］10：00～18：00（月～金）

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

facebookで活動の最新情報を発信中　ja-jp.facebook.com/421lab

北九州市立大学　地域共生教育センター

ラボ・レター

［活動報告書 2019］

ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は2020年4月21日をもって設立10周年の節目を迎えます。以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、一貫して地域活動に取り組む学生達を支援してきました。

地域の課題解決のため、持続的な地域として発展していくため、そしてその想いを叶えるために、学生達は身を粉にして活動をして参りました。単位も付与されない、報酬を得ることもないという状況の中で、学生達が主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。この10年間で様々な地域の皆様方に支えられながら活動をしてきた学生達は、ここで蓄えた経験や知見を携えて社会に巣立っていきました。彼ら彼女らが、今、全国各地で活躍していることを想像するだけで熱い想いでいっぱいです。

令和という新しい時代に入り、我が国、我が地域を取り巻く環境も大きく変化しています。地方創生、少子高齢社会、子どもの貧困、地球温暖化、新型ウイルス対策など、都市・地域を越えてグローバルな視点で考えていくことが求められています。「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の骨格となる理念は変わりませんが、時代の変化に即した新たな課題にも臨機応変に対応する柔軟性が求められているのではないでしょうか。地域活動のみならず、環境ESD副専攻プログラムや海外スタディツアーなどを通じて、これからも幅広い視点で物事を捉えることができる人材を育てていきたいと考えています。

地域の皆様方と「共に、生き」そして「教え、育む」。活動する地域、活動する学生達、さらにセンターのそれぞれが、これからの10年も大きく羽ばたき、成長することを期待します。

2020年3月
地域共生教育センター長
内田　晃

INDEX

6　421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
8　STEP1 事前研修
10　STEP2 実践活動
12　421Lab.学生運営スタッフプロジェクト
13　東日本『絆』プロジェクト
14　防犯・防災プロジェクト（MATE's）
15　ハッピーバースデープロジェクト
16　子ども食堂応援プロジェクト
17　桜丘小学校学習支援プロジェクト
18　キャンパスSDGsプロジェクト
19　国際交流プロジェクト FIVA
20　食べる国際貢献プロジェクト TFT
21　『食』から学ぼうプロジェクト
22　地域クリーンアッププロジェクト
23　青空学プロジェクト
24　「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
25　学生・いぬねこを守る会
26　平和の駅運動プロジェクト
27　三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear
28　オープンキャンパスプロジェクト／「キャリアーナ」プロジェクト
29　JOB×Project／施設での学習支援プロジェクト
30　STEP3 地域活動発表会
32　STEP4 振り返り研修・スキルアップ研修
34　2019年度トピックス（1）モンゴルフィールドスタディ
36　2019年度トピックス（2）レディスハトヤとのコラボイベント　東京ガールズコレクション（TGC）in 北九州
37　2019年度トピックス（3）ひびしんニューリーダー会　例会開催
38　インフォメーション型地域活動の紹介　私が活躍できる場所、みつけました
39　先輩へのインタビュー
40　REGION×STUDENTS
42　421Lab.　概要
43　「地域活動のタイプ」について
44　インフォメーション型の地域活動
45　2019年度地域共生教育センター活動記録
46　パブリシティリスト
47　新聞記事
51　地域活動の申込みの流れ

彼らの頑張りを見ていると、
自分たち大人にも何かできないだろうかといつも考えさせられます。
（学生の活動を応援してくださる企業の方より）

自分たちのやりたいことを具現化するために
今年はクラウドファンディングに挑戦して、見事目標をクリアできました。
（プロジェクト活動をする学生のコメント）

先輩からリーダーを引き継いで、全くと言っていいほど自信がなかったけど、
メンバーや受入先の方からのサポート、
そして何より子ども達がいてくれたからやり切れました。（プロジェクト活動をする学生のコメント）

たんに問題を解決しようとするだけではなく、
そこから自分たちでアイディアを加えるといった学生ならではの発想が面白く、
一緒に活動していて勉強になりました。
（受入先の方より）

子ども達にとって安心できる場所を創りたい。
学内のSDGsに対する認知度を高めたい。
ゴミが散乱するバス停を綺麗にすると同時に使う人のモラル向上に努めたい。
食を通じて被災地の風化防止に尽力したい。

その他にも既存のプロジェクト同士がコラボレーションしたり、
副専攻プログラムではモンゴルスタディツアーを実施したりと
令和元年にふさわしく新たな事にもチャレンジしました。

いつも学生達を指導して下さる受入先の方々、頑張った一人ひとりの学生達、
当センターに関わる全ての人達への感謝の意味を込めてラボレターを送ります。

421Lab.の

「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（分析）、Action（修正）の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。
どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。
しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。

STEP1
Plan

事前研修

事前研修は、地域活動をするにあたっての基本姿勢を確認し、身につけるための準備の場です。昨年度からの継続メンバーはこれまでの活動内容や昨年度の反省を確認するために「継続メンバー研修」を開催しました。また、今年度から参加する新規メンバーは受入先の方々をお呼びしてプロジェクトの目的や今年度の目標を確認するために「スタートアップ研修」を行いました。

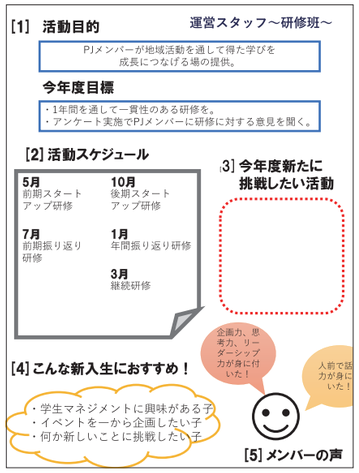
継続メンバー研修

【期間】2019年3月23日（土）～4月4日（木）

継続メンバー研修では、各プロジェクトが新入生の受け入れ態勢を整え、活動に対する意識を見直し、新年度を新たな気持ちでスタートすることを目的として行われました。今回の継続メンバー研修は、参加率を上げるためにプロジェクト単位で実施されました。

継続メンバー研修全体の流れ
1. 出欠確認･趣旨説明
2. パワーポイントと昨年度の「後期振り返り研修」のアンケート結果を用いた振り返り
3. 各プロジェクトの「個別説明会（新入生向け）」で使用する「年間スケジュール」の作成
4. 421Lab.の「地域活動説明会」で使用するパワーポイントの作成
5. 振り返り研修のアンケート記入
6. 終わりの挨拶

継続メンバー研修で用いた資料→



前期スタートアップ研修

【日時】2019年5月11日（土）10:00～13:00

前期スタートアップ研修では、新規メンバーに紹介するだけでなく、継続メンバーに活動の目的･目標を再認識するための研修です。2019年度の当研修の目的は「421Lab.や地域で活動する上での大切なことについて知ってもらい、新メンバーを迎えて今年度の活動の良いスタートを切る。」というものでした。研修は2部構成となっており、第1部では「地域活動を行なう上でのマナー」や「421Lab.の利用」などの説明から、421Lab.を理解し、続けて第2部でプロジェクトの「受け入れ先との顔合わせ」を行うことで、地域活動の先駆けとなるような研修になっています。

プログラム

時　間	内　容
はじめに 10:00～10:30	①概要説明　②自己紹介 ③APアンケート　④ラボ手帳の使い方
第一部 10:30～11:50	⑤ガイダンス　⑥地域活動を行う上でのマナー　⑦421Lab.の利用についてクイズ ⑧先生方の紹介　⑨自己紹介兼アイスブレイク
	移動･休憩
第二部 12:00～12:40	⑩受け入れ先の方との顔合わせ　各PJで今後の活動共有
さいごに 12:40～13:00	終わりの挨拶、諸連絡 研修アンケートの記入

学生の声（学生アンケートより）

《継続メンバー》
継続研修で考えた目的･目標の説明ができ、お互いにリラックスして良い雰囲気で会話ができた。

《新規メンバー》
先輩方の説明がわかりやすく421Lab.で活動する上で大切なことが理解できた。

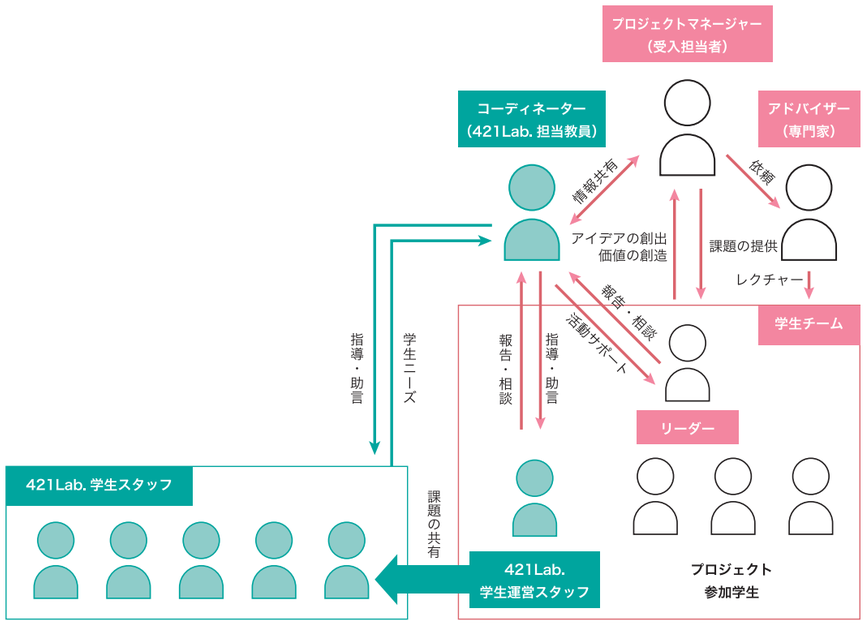
STEP2
Do

実践活動

実践活動では、周りの先輩方が何を見て、どう考え、どのように判断したのか。それを見聞きして知識として蓄え、経験を重ねていくことで、適切な判断へと近づいていきます。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値（経験や勘に基づく知識）をここで獲得します。

実践活動の組織体制

プロジェクト毎に関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。学生はリーダーを1人決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チームづくりのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



学びのためのきっかけを創りだす

センターが提供するプロジェクトはそもそも単位化されていません。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めて行く際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもありますが、途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

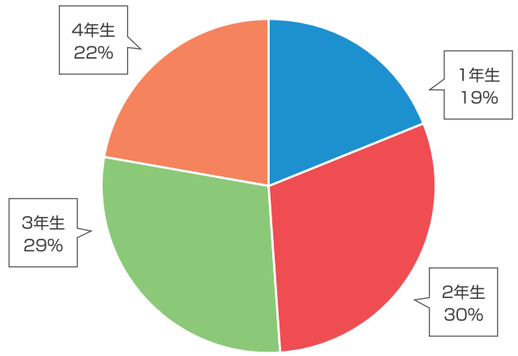
地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

地域共生教育センター 基礎データ

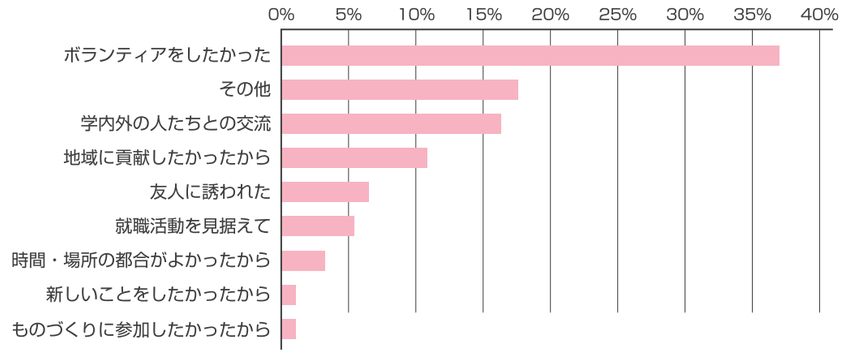
■ 登録学生数

2,076名（2020年2月末現在）

■ 活動学生の学年別内訳



■ 参加動機



STEP2
PROJECT 1

421Lab. 学生運営スタッフ プロジェクト

地域と学生の架け橋

◆ **リーダー**
法学部 法律学科
３年 近藤 晴菜

◆ **参加学生数**
62名

◆ **活動開始時期**
2010年4月～

◆ **活動頻度**
各グループ、
週に1～2回のミーティング
（週に1回全体ミーティング）
各グループ、イベントに応じて
活動（週1～2日）

◆ **連携・受入団体**
地域共生教育センター

◆ **主な活動場所**
北九州市立大学
北九州市内

多くの北九大生に地域活動を通して貴重な学びを得てもらうため、地域活動の魅力を発信し活動しやすい環境を整えることを目的に活動しています。地域活動をする学生に対し、より充実した学びを得てもらうためのサポートを行うと同時に、運営スタッフも地域に出て、地域の皆さんと一緒に活動しています。

今年度の活動の内容と成果

学生運営スタッフは、地域活動の魅力発信と地域活動を頑張る学生のサポートを行っています。多くの学生に地域活動に興味を持ってもらうための情報発信や、地域活動の経験から学びを得てもらうための研修や勉強会などの開催も行っています。また運営スタッフは、各地域活動プロジェクトのメンバーとしても活動しています。実際にプロジェクトメンバーとして活動することで、地域活動を頑張る学生に寄り添ったサポートの実現につながっています。

また、今年度は新しく様々なかたちで地域の皆さんと活動をすることができました。サニーサイドモールにてハーバリウム講座やエコバッグ講座を開催したり、広報誌「Lab.Times+」を北方自動車学校との協賛で発行したりしました。また、地域の若手経営者の方々と交流し、地域活動の魅力をお伝えしたり、今後に向けての意見交換などを行いました。

活動を振り返って、今後の展望

運営スタッフの活動は多岐に渡っており、その分様々な学生や地域の人とのつながりが得られます。多くの人々との出会いを大切にし、これからも色々なことにチャレンジしていきたいと考えています。現状で満足せず、活動を通じてよりよい経験・学びを得られるよう運営スタッフ全員で頑張っていきます。

STEP2
PROJECT 2

東日本『絆』プロジェクト

東日本大震災を忘れずに、長い支援を！

◆ **リーダー**
経済学部 経営情報学科
３年 前田 ほのか

◆ **参加学生数**
20名

◆ **活動開始時期**
2016年4月～

◆ **活動頻度**
週に1回のミーティング
（1時間程度）、
月に1回ほどのイベント活動
（北九州市内での
絆焼うどんの出店、勉強会の開催、
他プロジェクトとのコラボ活動等）

◆ **連携・受入団体**
「お好み焼き　いしん」

◆ **主な活動場所**
北九州市内
近隣の被災地

「北九州市からできる、細く長い支援」を心掛けながら北九大生だからできることとは何かを一人一人が意識し、どのように活動に取り入れていくのかをメンバーで共有、形にしています。被災地への訪問や勉強会の開催を通して風化防止活動を行っています。

また、活動の一つとして小倉発祥の焼うどんに岩手県釜石産のスルメイカを使用した「絆焼うどん」を販売。売り上げの一部を義援金として寄付しています。

今年度の活動の内容と成果

例年、東日本『絆』プロジェクトでは「支援活動」と「風化防止活動」の大きくわけて二つの活動を行ってきました。昨年度「もっと様々な場所での交流を行いたい」という改善点から今年度は「風化防止」に向けて大きく二つの活動を行ってきました。

一つめは「絆焼うどん」のふるまいです。今年度は北九州市内のお祭りのみならず、九州北部豪雨で被災した方々の集まりの場である杷木復興ベースや子ども食堂にお邪魔しました。「絆焼うどん」を現地で焼き、食べることから東日本大震災を知ってもらい、食べることも支援につながるのだ、ということを伝える活動です。私たち自身も直接感想を聞くことができるので「絆焼うどん」を通じて様々な会話につなげていくことができました。

二つめは「ウェル戸畑」で行われた「ふれあいフェスティバル」でのシンポジウムの開催です。今年度の活動を振り返りながら「戸畑に住む人」に自然災害を自分のこととして考えてもらうためにはどうするべきかを考えながら、メンバー全員でクイズやディベートの問題を作成しました。実際に戸畑の地図を使って避難所、避難ルートを考えるなど生活に組み込める問題を作っていきました。市民の皆さんと一緒に答えを考えていくことで、私たち自身も有事に向けた生活をもっと広めていきたいという気持ちが強くなっていきました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度はソフト面での活動が増えていきました。今年度の活動を踏まえて、今後私たちに必要なスキルは「対話」ではないかと考えます。自然災害を自分のこととして考えてもらえるように、ということで私たちも活動を行ってきましたが、岩手県釜石市への訪問から風化防止活動を望まない声もあることを知りました。自分がもしその立場になったなら、という事だけではなく相手が今何を必要としているのか、不快に感じてしまうのかを環境や様々な情報から考察する必要があると考えます。

来年度も多方面での交流活動を増やしていこうと考えています。得られた知識や情報からそこにいる人に還元できるよう、活動を行っていきたいです。

STEP2
PROJECT 3

防犯・防災プロジェクト（MATE’s）

防犯・防災意識向上の“きっかけ”づくり

◆ **リーダー**
法学部 法律学科
3年 阿波 裕恵

◆ **参加学生数**
43名

◆ **活動開始時期**
2010年10月～

◆ **活動頻度**
月に2回程度の定例ミーティング
平均月3、4回の活動

◆ **連携・受入団体**
北九州市役所
小倉南警察署
区役所
消防署
福岡県庁
NPO法人好きっちゃ北九州
一般社団法人九州防災パートナーズ

◆ **主な活動場所**
北九州市内の小学校
市民センター
朝倉市等

「北九州を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」そんな想いから、防犯・防災という切り口で活動を行なっています。そういった中で、一人ひとりが他人事ではなく自分事として考え、万が一の時ベストな行動がとれるよう、防犯・防災の側面から地域コミュニティの活性化を図るプロジェクトです。

今年度の活動の内容と成果

今年度私たちは、「学生の成長を地域貢献に繋げること」を目標に活動を行なってきました。

具体的な取り組みとしては、防犯分野では地域安全マップづくりの事前学習を行なったり、防犯アカデミーのフォローアップを行ったりしました。また、防災分野では学生の知識や意識の向上のため災害ボランティア研修·防災研修に参加しました。

それだけでなく、継続的な支援活動にも力を入れており、2年前の九州北部豪雨で被害を受けた朝倉市に災害ボランティアとして支援活動も行なってきました。今年度は九州北部豪雨の被害を忘れないこと、北九州の防災意識向上のきっかけづくりを行うことを目的に、朝倉市で採れたもち米を使って餅つき大会を北九州市内で2回実施しました。

この様に学生自身が防犯防災の活動を通して成長し、質の向上につながっただけでなく、継続的な支援活動も行うことのできた充実した1年となりました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度私たちは様々な活動を昨年から引き続き行うことができました。その一方で、防犯·防災面で地域への持続的な関わりができていないという現状があります。そこで来年度は地域と長期的に携わることができる活動を行っていきたいと考えています。

具体的には安全マップづくりで見つかった「危険な場所」を「安全な場所」へ改善する活動であったり、地区防災会議への積極的な参加であったり、今まで以上に地域と長期的に関わる活動を行なっていくことで自分達の活動の幅を増やしていきたいと思います。

STEP2
PROJECT 4

ハッピーバースデープロジェクト

子どもたちが成長できる誕生日会をつくるために ～ゼロから作る特別な誕生日会～

◆ **リーダー**
経済学部 経営情報学科
2年 山口 亜美

◆ **参加学生数**
12名

◆ **活動開始時期**
2010年4月～

◆ **活動頻度**
毎週水曜日の
3～5限に準備を行い、
第3水曜日に誕生日会を行う

◆ **連携・受入団体**
東朽網放課後児童クラブ

◆ **主な活動場所**
東朽網放課後児童クラブ

児童クラブには、保護者の方の仕事の都合で、放課後を家庭で過ごすことができない子どもたちが多くいます。そのため、子どもたちに少しでも楽しく特別な時間を過ごしてほしいという思いからプロジェクトがスタートしました。現在は、大学生が月に一度、東朽網放課後児童クラブを訪問し、自分たちでゼロから企画・運営する誕生日会を開催しています。

今年度の活動の内容と成果

私たちは、今年度も東朽網放課後児童クラブと連携して毎月一回の誕生日会を開催しました。今年度は「子どもたちとの接し方についての勉強会を開いて専門知識を増やし、その知識でより充実したお誕生日会を開く」というテーマを掲げ、一年間活動してきました。普段から子どもたちだけでできるゲームではなく、私たち大学生が来たからこそできる特別なゲームを考えました。

具体的には、季節のイベントを取り入れたゲームなどです。夏には夏祭り、秋にはハロウィンゲーム、冬にはオーナメントを使ったゲームを行いました。一風変わった遊びを通じて、子どもたちは季節を意識できたり、変わった道具を使ってのゲームやクイズ楽しんだりと積極的に参加してくれました。今年掲げたテーマのもと、メンバー間で協力し合いながら充実した誕生日会づくりの活動をすることができました。良かった点は次に活かし、反省点は改善を加えながら来年度の活動につなげていきたいと思います。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は設定した目標を達成し、充実した誕生日会を開くことができました。来年度は、これまでの楽しい誕生日会に学びの要素を取り入れたり、積極的に421Lab. の他プロジェクトとコラボして新しい知識を取り入れたりしながら、子どもたちにとって楽しさと学びのある誕生日会を開きたいと思います。そのために、勉強会を定期的に開催し、子どもたちだけでなく私たち自身も成長できる活動を行いたいと思います。

STEP2
PROJECT 5

子ども食堂応援プロジェクト

おなかも心も満たされる、あたたかい居場所づくり

◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 長坂 真帆

◆ **参加学生数**
65名

◆ **活動開始時期**
2016年9月～

◆ **活動頻度**
月に1、2回程度
※活動場所である6カ所の中から自分に合った場所を選択
《尾倉》第2･4（水）17：00～
《日明》第1～3（木）17：00～
《城野》第4（水）17：00～
《あんず》第3（金）17：00～
《門司》第1･3（水）17：00～
《足立ウチヤマ》第1･3（火）17：00～

◆ **連携・受入団体**
北九州市役所子ども家庭局子育て支援課
NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
グリーンコープ北九州
ウチヤマホールディングス
地域団体（有志）

◆ **主な活動場所**
尾倉市民センター、日明市民センター
城野市民センター、小倉中央市民センター
大里南市民センター、足立市民センター

仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭の子どもたちの孤食を防ぎ、子どもたちが「ただいま」と言える第三の居場所を提供することを目的に、子ども食堂での活動に参加しています。私たちのプロジェクトでは、子どもたちとご飯を食べるだけではなく、個別に学習支援を行ったり、一緒に全力で遊んだり、イベントを企画したりと様々なアプローチから楽しい居場所を作ることを目指しています。

今年度の活動の内容と成果

今年度はプロジェクトメンバーが昨年度の2倍に増えたことで、活動場所を拡大することができました。そのため、地域の方や学生からの要望にも対応しやすい環境で活動できました。また、今年度はより一層子どもたちに楽しんでもらえるよう、プロジェクト同士のコラボレーション企画や、季節ごとにイベントの実施を積極的に行いました。イベント実施日は普段の活動とは異なるため、いつにも増して子どもたちの笑顔を見ることができました。また、学生自身が企画を考えることで、今まで感じていた活動のマンネリ化を払拭することにも繋がり、企画力や責任感が高まったのではないかと感じています。

今年度は北九州子ども食堂学生ボランティアサミットへも事前打ち合わせから当日まで参加させて頂き、課題や良い点などについて大学を超えて話し合うことができ、普段の活動についても見直すことができました。

活動を振り返って、今後の展望

プロジェクトメンバーの思いや実施したいことをより実現できるよう、メンバー間の仲を一層深め、子どもたちだけではなく大学生も楽しいと感じられるプロジェクト･活動にしたいです。

また、より多くの人に子ども食堂について認知してもらい、一人でも多くの子どもたちの居場所作りができるよう、情報発信に努めたいです。

STEP2
PROJECT 6

桜丘小学校学習支援プロジェクト

とにかく深く！児童の学力向上に貢献!!

◆ **リーダー**
外国語学部 英米学科
2年 河原 滉樹

◆ **参加学生数**
9名

◆ **活動開始時期**
2017年4月～

◆ **活動頻度**
月に5時間程度
小学校の時間割に自分の空き時間を合わせて自分でスケジュール調整ができるのでとても参加しやすいです。

◆ **連携・受入団体**
北九州市立桜丘小学校
富野小学校

◆ **主な活動場所**
北九州市立桜丘小学校
富野小学校

小倉北区の桜丘小学校や富野小学校にて、児童の学習支援を行っています。担任の先生と一緒になって、通常行われている授業に参加し「AT=アシスタント･ティーチャー」として、子どもの理解をサポートする役割を担っています。その他にも、特別支援学級に入り生活支援を行ったり、前年度からは子どもたち向けに「キャリア教育」と題し、将来の進路について特別授業を行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は前年までプロジェクトを支えてくださった4年生の穴を埋めるべく、とくにメンバー募集に力を入れました。教職の授業での宣伝や、ちらしの配布をさせていただき、多くはありませんが、新しいプロジェクトメンバーを集めることができました。活動では、児童に将来の進路について考えてもらう「キャリア教育」特別授業を、桜丘小学校に加えて近所の富野小学校でも行ったことで、以前よりも多く、さまざまな子どもたちと接する機会が増えました。それにより活動にもメリハリが出て、今までよりもさらに充実した活動を行うことができました。

10月からは私たち大学生が主体となって行う「放課後教室」や、昨年のチャレンジとして行った「キャリア教育」など、学習支援と並行してプラスαの活動を行いました。実際の小学校の現場で私たち大学生が主体となって授業を行い、現場の空気感を肌で感じることで卒業後も役立つ実践力を培うことができました。

活動を振り返って、今後の展望

昨年度からの目標にも掲げた活動人数の問題を、来年度はさらに改善していきたいと思っています。今年度に行った教職の授業でのPRやちらしの配布などに加えて、メールやSNSからの発信で、より多くの人に私たちの活動を知っていただけるように尽力していきたいです。

STEP2
PROJECT 7

キャンパス SDGs プロジェクト

届け！SDGs

- **リーダー**
  文学部 比較文化学科
  1年 皆川 愛良
- **参加学生数**
  12名
- **活動開始時期**
  2019年4月～
- **活動頻度**
  月に1時間程度、
  毎週火・金曜日
- **連携・受入団体**
  なし
- **主な活動場所**
  北九州市立大学

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2030年までに達成すべき17の目標として2015年に国連で決められました。今、この目標を達成するために世界中で様々な取り組みが行われています。キャンパスSDGsプロジェクトでは、SDGsの認知度を上げるための取材活動や情報発信を行っています。また、北九州市のSDGs達成度を測るための指標作りなどの活動も行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度から始まったこのプロジェクトでは、まずSDGsの認知度を測るために学内でアンケート調査を実施しました。その結果、全く知らないと回答した人が一定数いたため、学内におけるSDGsの認知度向上を目指して周知活動を行うという方針になりました。

そのためには私たち自身がSDGsについて学ぶ必要があったため、北九州まなびとESDステーションで行われたSDGsの勉強会や門司港の「かふぇギャラリー源氏屋」さんのSDGsセミナーに参加しました。

そしてSDGsについて発信するため、学内や周辺のSDGsに関する取り組みを見つけ、取材を行いました。フードバンクや青空学プロジェクトなどです。これらの記事はキャンパスSDGsのホームページに載せる予定です。学内だけでなく一般の方にも読んでもらえるといいです。

さらに、北九州市が取り組んでいる事業を調査し、北九州市版SDGsインディケータを作成する作業にも取り組んでいます。大変な作業ですが、SDGsについて新しい視点から考える機会になりました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度からのプロジェクトなのでまずは活動の方針を決めるところから始まりましたが、メンバーそれぞれの興味のある分野が異なり、なかなかまとまらず苦戦しました。学内での周知活動という方針が決定してもメンバーが揃わずモチベーションが維持できませんでした。一方で、SDGsへの理解を深め、学内や北九州市の取り組みなどを知り、SDGsについて考えることができました。今後はSDGsを広める活動だけでなく、達成のための取り組みも行っていこうと考えています。

STEP2
PROJECT 8

国際交流プロジェクト FIVA

笑って、学んで、楽しむ。北九州市で国際交流

- **リーダー**
  地域創生学群 地域創生学類
  2年 漆島 百萌
- **参加学生数**
  61名
- **活動開始時期**
  2016年4月～
- **活動頻度**
  月に1～2回程度のイベント、
  毎週火曜日にミーティングなど
- **連携・受入団体**
  北九州YMCA学院
  北九州国際技術協力協会（KITA）
  JICA九州国際センター
- **主な活動場所**
  北九州市内各所

北九州市に日本の技術を学びに来るJICA研修員さんやYMCA日本語学院で日本語を学ぶ留学生の方たちに、日本滞在期間中に充実した時間を過ごしてもらうための国際交流を行っています。自分たちで一から交流活動の企画・運営をすることで、交流づくりの楽しさや異文化理解の重要性をより深く学ぶことが出来ます。また地域住民のご協力も得ながら多文化共生の心を育むことを目標としています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は昨年度に比べプロジェクトメンバーが倍増したため、SNS班、アンケート班、準備班の班体制で当日に向けた準備を丁寧に行い、留学生・JICA研修員とより密接に交流することが出来ました。私たちが今年度の活動で特に力を入れたのは、留学生・JICA研修員へのアンケートの実施です。留学生やJICA研修員から得られたフィードバックやプロジェクトメンバーがイベント終了時に毎回行う反省会の結果をもとに、次回の企画や来年度のイベントに向けて改善を行ってきました。プロジェクトメンバーが増えたことにより多方面の視点からの提案や日本人だけでは気づけない外国人からの提案も取り入れられたため、プロジェクト活動の質が向上したと思います。またプロジェクト内の小さな目標として掲げられた「活動エリアの拡大」に対し、新しい企画を複数行うことが出来ましたし、新たな地域住民との出会いがあり、FIVAのテーマである「多文化共生」を少し広めることができました。留学生・JICA研修員はもちろんですが、地域住民の方たちとの出会いも大切にすることで私たちの活動の幅を更に広げていきたいと思います。

活動を振り返って、今後の展望

今後は他プロジェクトとのコラボ企画や地域住民と共同で取り組む企画など留学生・JICA研修員にとってFIVAが交流の懸け橋になれるよう、今までとは違う視点からもアプローチしていきたいです。また今年度からInstagram、Twitterを開設したので、私たちの活動を一人でも多くの方に発信したいと思います。このプロジェクトを通じて出会った留学生・JICA研修員にとって、更に北九州市が魅力的で住みやすい場所になるよう継続的な関わりを持つことを大切にしていきたいです。

STEP2
PROJECT 9

食べる国際貢献プロジェクトTFT

ランチから始めるおいしい国際貢献！

◆ **リーダー**
経済学部 経営情報学科
２年 平良 慎太郎

◆ **参加学生数**
17名

◆ **活動開始時期**
2014年4月～

◆ **活動頻度**
月に4時間程度、
毎週木曜日など、メンバーの
都合がよい曜日の昼休みに
ミーティングをしています。
調理実習や学園祭への出店などの
企画直前の忙しい時期は
ミーティング外の活動が
週に1～2時間程度生じます。

◆ **連携・受入団体**
北九州市立大学生活協同組合

◆ **主な活動場所**
北九州市立大学 北方キャンパス
北方食堂

世界では全人口約70億人のうち、20億人が肥満に苦しむ一方で10億人は飢餓に苦しんでいます。この食の不均衡を解決するために、私たちは学食でTABLE　FOR　TWO（以下TFT）メニューを販売し、1食につき売上の20円を途上国の子どもたちの給食1食分の寄付金として届ける活動を行っています。生協食堂にご協力いただき、月1回のTFTフェアの開催と、その広報活動を主に行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、個人でも会社でもなく、大学で学生がTABLE FOR TWOをやることの意味を模索した1年でした。昨年度以前から取り組んでいたTFTフェアに加えて、新たな取り組みを幾つも行いました。自分達の活動が何に繋がっているか、その目的を改めて理解するためにプロジェクト内でTFTや食の国際問題をテーマに勉強会を開催したり、支援先の給食を再現する調理実習を計2回行いました。後期からは、青嵐祭に出店して広報活動をしたり、TFTの母体である　特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International が主催するおにぎりアクションや、JICA九州主催のウィンターフェスタと、学内外問わず関連する活動には積極的に参加しました。また、年度末にはTFTに取り組む近隣の大学にアポイントメントをとり、来年度の活動の参考にするために訪問調査をしました。特に久留米大学では、学内のTFTを指導し、社会貢献をテーマに専門的に研究する松田准教授から学生がTFTに取り組む意義について貴重なお話を伺うことができました。

決して全ての活動が順調に進んだ訳ではなく、未だに多くの課題を抱えていますが、この1年間の活動は決して無駄ではなく貴重な知識や経験が得られました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は新たな取り組みを幾つも行いました。TFTフェアを繰り返すだけでなく、様々な活動を展開してきた一方で、肝心のTFTフェアが疎かになってしまったのが大きな反省点です。生協の担当者と調整がうまくできなかったのが大きな原因でしたが、年度末には解決できたので来年度はTFTフェアを定期的に開催できる予定です。プロジェクトリーダーが生協の役員を兼任しているので、来年度は生協との更なる連携を図ったり、互いに利益のある関係性作りに取り組みたいと思います。

STEP2
PROJECT 10

『食』から学ぼうプロジェクト

若者の食に対する関心を高める

◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
３年 佐藤 樹

◆ **参加学生数**
16名

◆ **活動開始時期**
2016年4月～

◆ **活動頻度**
月に2時間程度、
毎週金曜日など
行事やイベントの企画運営を
するときは、集まる時間や
連絡などやり取りが増えます。

◆ **連携・受入団体**
足原ピッコロ子ども食堂
広徳小学校
城野自動車学校など

◆ **主な活動場所**
足原ピッコロ子ども食堂
広徳小学校
各自宅のキッチンなど

大学進学で一人暮らしを始め、食生活が乱れて、不健康になってしまう学生は少なくありません。そこで私たちは若者の食の意識の低さを解消するための活動を行っています。食と健康について自発的に学習し、その成果を子どもたちや同世代の学生に伝えています。子ども食堂での昼食献立作りと調理、地域の小学校での食・健康学習の支援、学内外での調理実習や食習慣改善教室への参加、お弁当作りの推進など様々な食育活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

足原ピッコロ子ども食堂（足原市民センター）で50名以上の子どもたちに食べてもらう昼食のレシピを学生たちで考え、調理から後片付けまでを行いました。また、月に2回の頻度で「マイ弁当デー」を実施、自宅でお弁当を作って、大学で仲間に披露し、インスタグラムなどSNSを通してお弁当の情報を発信してきました。

今年度は新しい取り組みも行いました。城野自動車学校と連携し、キャンパス内で大学生だけでなく、教職員も対象に飲酒疑似体験イベントを実施したり、大学の近所にある広徳小学校で児童と一緒に給食を食べる「給食訪問」を始めたほか、食習慣改善教室に参加し、食育推進員さんとの調理実習や意見交換を行いました。特に小学生との交流は貴重な体験で、児童の食の意識や知識について調査し、子ども食堂での献立作りに活かすことができました。

活動を振り返って、今後の展望

今後は地域の小学生だけでなく、大学生向けにSNSを駆使した食育活動を推進していきたいと思います。今年度実施した各行事の企画運営を継続しながら、私たちの世代でできる新しいことにチャレンジしていきます。新入生を積極的に募集し、彼らの意見やアイデアを取り入れた新しい活動も行います。

STEP2
PROJECT 11

地域クリーンアッププロジェクト

ゴミも学びも拾おう！

- **リーダー**
  地域創生学群 地域創生学類
  3年 梶原 大史
- **参加学生数**
  55名
- **活動開始時期**
  2015年4月～
- **活動頻度**
  毎週金曜日に定例活動、
  月に数回土日に活動
- **連携・受入団体**
  北方市民センター
- **主な活動場所**
  北方校区
  北九州市小倉北区馬島

清掃活動を通じて地域を変えるきっかけ作りを目的に活動しています。主に大学周辺の北方校区で地域の方と一緒に定期的な清掃活動（green bird）を実施しており、清掃活動の運営やイベントの企画などを行っています。また、小倉北区馬島の漂着ゴミの清掃活動や紫川清掃など、様々なフィールドで活動に取り組んでいます。

今年度の活動の内容と成果

今年度は55名という大人数で様々なことにチャレンジできた1年でした。毎週金曜日に行っている定例清掃でも、昨年より参加人数が増え、プロジェクトメンバー1人1人が成長することができたと思います。新たな取り組みとして、今年度は北方だけでなく、北九州の様々な場所を清掃してきました。その一つである紫川清掃では、ただ清掃するだけでなく、川のどのような場所にゴミが多いのかや、環境において川はどのような役割を果たしているのかなどを、メンバー間で共有することで、その清掃場所に関する新たな学びができました。さらに、今年度は広報活動も積極的に行ってきました。特に、「青嵐祭」や北方市民センターで行われる「ふれあいの夕べ」での出店活動を通して、普段行っている活動の宣伝をしました。地域の方々が来てくださる場所で、私たちの活動を宣伝することにより、かなり多くの人に広報ができたと思います。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、社会人の方々を含めて多くの方々と一緒に清掃活動を行ってきましたが、次年度はさらに多くの社会人や地域の人々を巻き込む清掃活動を行っていきたいと考えています。また、様々な場所に出張掃除に行き、活動の範囲を広げ、環境やゴミの分別を学ぶ機会を設けて、より地域に根づいた活動を行っていきたいと考えています。

STEP2
PROJECT 12

青空学プロジェクト

学生自らが実践するSDGs

- **リーダー**
  法学部 政策科学学科
  2年 田宮 佳奈
- **参加学生数**
  3名
- **活動開始時期**
  2017年4月～
- **活動頻度**
  月に5時間程度、
  毎週水曜日など
- **連携・受入団体**
  里山を考える会
- **主な活動場所**
  エコハウス
  （里山を考える会：八幡東区）

青空学プロジェクトは2016年に誕生しました。北九州市は過去に公害が発生していましたが、企業や行政の責任を追及するだけでなく、市民自ら運動を起こし、公害を克服していきました。その精神に倣い、私たち学生も地域の環境に関する問題を見つけ、解決していくことを目指しています。2017年度までは北九州市の公害を克服した当時の関係者への取材とそのまとめ、啓発活動を行ってきました。昨年度からはSDGsに着目した活動を行なっています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は放置竹林の問題に着目して活動を行いました。放置竹林は竹の繁殖力の強さにより、他の木々を追いやってしまうため生態系を破壊させるほか、竹は根を地中深くまで張らないため地滑りや土砂崩れを引き起こすことがあります。私たち「青空学プロジェクト」はNPO団体である里山トラスト会議の方や一般のボランティアの方々とともに放置竹林に出向き、竹林整備を行いました。また、その時に出た竹を利用し、北九州市在住の『竹凛共振』を主宰されている方に教わりながら、チェロ、ヴァイオリン、ウクレレ、パーカッションを作り、実際に演奏の練習をし、エコライフステージにて演奏しました。各楽器は来場者にも触ってもらい、放置竹林問題だけでなく竹の資源としての有効性を知ってもらうことができました。

定例活動としては里山を考える会が月に2、3回開催している「SDGsシネマ」の上映受付や上映後のディスカッションへの参加を行いました。「SDGsシネマ」はボランティアの側面としてだけではなく、私たち自身の「SDGs」への見識を深める機会になりました。

活動を振り返って、今後の展望

私たちはSDGsをテーマに来年度も活動していきたいと考えています。現時点では竹林問題にも関連するプラスチックゴミ問題についての活動を行なっていきたいと思います。竹林問題が広がる背景には石油化学製品の台頭による資源としての竹の需要の低下も一因になっています。石油化学製品は廃棄後も自然に帰るまで時間がかかるため、マイクロプラスチック問題等を引き起こしています。このように竹林問題と合わせたプラスチック問題について積極的に活動を行いたいと考えています。

STEP2
PROJECT 13

「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト

日常に文学を。

◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
3年 津野 詩音

◆ **参加学生数**
18名

◆ **活動開始時期**
2015年11月～

◆ **活動頻度**
○学内ミーティング
月に4コマ程度、
毎週木曜日など
（ミーティングの日程は、
メンバーの時間割を
考慮して決定）
○受け入れ先ミーティング
月に2回程度
○イベント
1･2ヵ月に1回程度

◆ **連携・受入団体**
京町銀天街
北九州市役所
子ども図書館

◆ **主な活動場所**
ミーティング：学内
イベント：
京町を中心とした様々な地域

森鴎外や松本清張など、北九州市にゆかりのある作家は多くいます。しかし、そうしたことを知らない若者の多くは、北九州市の文学的側面に注目することが多くありません。私たちブンガクプロジェクトは、若者の「文学って古い、固い、難しい」といったイメージを変え、「文学」を新たな北九州市のブランドとしていくために活動をしています。

今年度の活動の内容と成果

今年も昨年までの活動を継続しつつ、文学に親しみのない層や若者に向けて様々な企画を考えて実行しました。本とのかけがえのない出会いをつくることを目的とした「古本市」の出店では、活動の場を大学内に広げることで、文学と大学生を結びつけることができました。また、劇団TOKISAの方々と実施した「朗読会」では、観客の皆様によりわかりやすく印象的に伝えるために何ができるかをしっかりと考え抜くことができたと実感しています。これらの企画は今後も創意工夫を凝らして継続していきたいです。

新しい企画としては、絵本に登場するお菓子を実際に販売したり、文豪をイラストでポップに描いたインスタ映えスポットを生み出したりと、文学を日常に浸透させるきっかけとなる活動を行うことができました。

今年も多くの方々のご協力のおかげで魅力的な活動を行うことができ、充実した1年間であったと深く感じています。

活動を振り返って、今後の展望

今年は嬉しいことにたくさんの1年生がプロジェクトに入ってくれました。これからはミーティングの機会を増やすことでメンバー同士の交流を深め、より個性的でオリジナリティのあふれる企画を作っていきたいです。また、より文学と結びつきの深いイベントを行うためにメンバー全員が文学作品や文豪について触れる勉強会も始めたいと考えています。

STEP2
PROJECT 14

学生・いぬねこを守る会

学生・いぬねこを守る会！

◆ **リーダー**
文学部 比較文化学科
2年 金丸 眞子

◆ **参加学生数**
33名

◆ **活動開始時期**
2016年4月～

◆ **活動頻度**
○ミーティング
第一水曜日と第三木曜日の
お昼休み
○ドッグセラピー
月に約3回
○子ども食堂
毎月最終金曜日

◆ **連携・受入団体**
ドッグセラピージャパン
NPO法人 門司港レトロ犬猫を守る会

◆ **主な活動場所**
北九州市内の介護施設
かたのだ子ども食堂
門司港

私たちは、「犬猫の殺処分ゼロ」を第一目標として活動しています。また、人と犬猫がよりよく関わりあえる環境づくりを目指して活動しています。門司港での譲渡会への参加に加え、今年度後期からはドッグセラピージャパンさんに受け入れていただき、介護施設や子ども食堂等でのセラピー活動や、犬猫に関する啓発活動を行ったりしています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は昨年度と比べ活動の幅が広がりました。前期は昨年度同様、門司港での譲渡会に参加しました。そこでは犬猫たちと触れ合ったり、テントを訪れてくださる方と対話をしたりと、迷い犬･猫たちの存在や譲渡会の認知度アップを目標として活動しました。後期は新しくドッグセラピージャパンさんに受け入れ先になって頂き、介護施設や子ども食堂でのセラピー活動をスタートしました。

介護施設ではセラピー犬とタッグを組み、施設利用者さんとのコミュニケーションをとりながらセラピー活動を行っています。

子ども食堂では子どもたちと一緒にワンちゃんと触れ合うだけでなく、「犬の十戒」を紙芝居にして披露するなど、犬との接し方や命の尊さについて子供たちに知ってもらう機会をつくりました。

こうしたセラピー活動を通して、人と犬猫が触れ合うことの大切さを学ぶことができました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度から譲渡会に加えセラピー活動が始まったことで、お手伝いをするだけでなく、自分たちで考え行動するようになり、そこから反省点を発見し、成長することが出来るようになったと思います。来年度はそういった「気付き」をもとに、より多くの方々に犬猫の現状やセラピーの可能性を伝えていきたいです。また今年度はプロジェクトの動かし方に試行錯誤した1年でした。しっかりとした土台･明確な目標を作って、より良い活動を行っていきたいです。

STEP2
PROJECT
15

平和の駅運動プロジェクト

太鼓で“核なき世界を”長崎街道を平和ロードに！

◆ **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 神谷 留菜

◆ **参加学生数**
6名

◆ **活動開始時期**
2009年4月～

◆ **活動頻度**
月に2～10時間程度
毎週火曜日など

◆ **連携・受入団体**
顧問：中島俊介名誉教授
北九州市立徳力小学校
北九州市立西小倉小学校

◆ **主な活動場所**
研究室
北九州市
長崎市
鳥栖市

「北九州市小倉が、実は原爆投下の第一目標だった」という歴史的事実を重く受け止め、「北九州市の学生だからできること」をモットーに、北九州市小倉に根付く伝統芸能“小倉祇園太鼓”を用いて、音楽と若さの力で平和を訴える文化的平和活動を行っています。

夏には自転車で小倉から長崎まで自転車リレーをしながら広島原爆の残り火を運ぶ活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、団体が発足されて10年の節目の年だったので、既存の活動に加え、新たな取り組みも行いました。活動開始当初から開催し続けており、活動の原点とも呼べる「学生平和太鼓フェスティバル」を今年度も開催しました。また、10年目を記念し沖縄県知事の玉城デニー氏からピースメッセージを頂戴し、フェスティバルの場でご紹介いたしました。

また、8月8日の八幡大空襲の日にも「第4回北九州平和音楽祭」を開催しました。今回は小学生の合唱チームや、吹奏楽団等、地元の子どもたちの演奏を中心に披露しました。

自転車リレーでは、8月6日に八女市星野村で採火した広島原爆の残り火を小倉から長崎の平和公園まで1週間かけて無事運び、小倉祇園太鼓の音とともに奉納しました。

また、10周年を記念して「高校生と考える私たちの平和の形」という高校生対象ワークショップを初めて行いました。成果として、高校生という今まで関わることのなかった新しい世代と交流することで、新たな考え方に出会うことができ、これからの活動に大きく役立てていけると感じました。

活動を振り返って、今後の展望

今期に初めて行った取り組みとして、今までかかわってこなかった「高校生」をターゲットにしたイベントを開催しました。今までは小学生や高齢者の方々を対象としたイベントが多かったのですが、来年度からは「中学生・高校生」の次世代を担う若者に向けて平和について発信していく活動を行っていきたいです。

STEP2
PROJECT
16

三萩野バス停モラル・マナーアップ PJ Clear

課題解決で価値向上～Clearを目指して～

◆ **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 那須 晴花

◆ **参加学生数**
7名

◆ **活動開始時期**
2017年6月～

◆ **活動頻度**
週に1回の定例清掃活動
毎週1コマの学内ミーティング

◆ **主な活動場所**
三萩野バス停周辺

高速バスの昇降口であり北九州の玄関口とも呼ばれている三萩野バス停ですが、ゴミが散乱して薄暗く、利用者が気持ちよく使える場所ではありませんでした。これらの問題を解決し、三萩野バス停の価値を向上させるために、毎週のミーティングやゴミ拾い、バス停の利用者へアンケート調査など、啓発活動・広報活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は定例清掃や定例ミーティング、大規模清掃、アンケート調査といった従来の活動に加え次のような新しい企画も行いました。まず「子ども食堂応援プロジェクト」とのコラボでは子ども食堂の子どもたちに啓発ポスターを作成してもらいました。そのポスターは三萩野バス停の掲示板に掲載しています。また北九州市の会社であるシャボン玉石鹸さんからは洗剤を提供してもらい大規模清掃を行いました。環境にも優しいうえ、とても汚れが落ち、綺麗になりました。さらに9月から始めた月一企画では、担当を振り分けて月に一度プロジェクト全体で活動を行いました。ハトの生態を調査し、ハト対策を考えたり、環境についての映像を見て世界のごみ事情について学ぶなど様々な分野の活動を行いました。一方勉強会では、もっと「ごみ」や「マナー」について知り、活動に繋げるために1人1つ題材を持ってきてミーティングの最初に全員でその情報を共有し合いました。自ら企画を考え導入し活動に繋げることで昨年度よりモラル･マナーやバス停の利用状況、ごみについてやハト対策などの地域の価値向上に繋がる知識が増えました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度新しく導入した企画で得た知識のもと、具体的な地域での実践活動に繋げていこうと考えています。現在課題になっているハトの糞やタバコのポイ捨てを減らすことに加え、三萩野バス停だけの活動ではなく他地域でも活動を行い、その結果を最終的に三萩野バス停での活動に還元したいと思います。

STEP2
PROJECT
17

オープンキャンパスプロジェクト

北九大生による大学の広報活動

オープンキャンパスは、高校生をはじめとする進学希望者に情報提供をする目的で毎年夏に開催しています。このイベントの企画から当日の運営まで学生が中心となって行うこのプロジェクトは、チームで働く大切さを学ぶとともに、自身のキャリアアップにもつながっています。2019年度は44人の学生が参加して、学生の発想力と行動力でオープンキャンパスを盛り上げました。「この大学に通いたい!」と思ってもらう「きっかけ」づくりとなる大変重要な活動です。

STEP2
PROJECT
18

キャリアーナプロジェクト

北九大生による、北九大生のための就活情報誌

私たちのプロジェクトは、北九大生へ就職活動に関する情報を提供するフリーペーパー「キャリアーナ」の発行と、北九州地域の企業を業界ごとにまとめた「業界マップ」の取材記事の作成です。

当プロジェクトでは、企画から企業への取材交渉、印刷業者との発行のやり取りまでをメンバーが自主的に行い、学生の目線で就職活動についての情報を提供しています。

2019年度は、「キャリアーナ」3名、「業界マップ」7名で活動し、学内の学生や社会人の方々に取材を行いました。

STEP2
PROJECT
19

JOB×Project

企業選定から当日運営まで全てを北九大生で行う合同セミナー!!

JOB×Projectでは、業界研究を行う学内合同業界セミナー「JOB×Lab.2021」(11月〜12月水曜日、全4回)、及び学内合同企業研究会「JOB×HUNTER2021」(2月6日・7日)の企画・運営を行います。企業・団体の誘致を行う「営業」の仕事を全員で行い、各種イベントの企画を行う「イベント班」、学生への広報活動と冊子作成を行う「プロモーション班」、会場設営や当日の運営を行う「オペレーション班」の3班で活動しています。企業・団体様と接することで自らの将来を描き成長できるプロジェクトです。

STEP2
PROJECT
20

施設での学習支援プロジェクト

様々な事情を抱えている子どもたちの学習支援

家庭や社会において様々な事情を抱えている子どもたち。そんな小中学校の子どもたちに対して学習支援を行っています。活動内容としては、宿題の予習・復習。さらには学校の授業で分からない所の指導をしています。単に勉強を教えるだけでなく、何気ない会話を大切にし、温かく見守ってくれる大人でもない友だちでもない「大学生」といった関係をつくる、とてもやりがいのある活動です。

STEP3
Check

地域活動発表会

地域活動発表会とは、今年度の活動の成果を発表し、学生や受入先、一般企業の方に421Lab.のプロジェクトの取り組みについて知っていただく素晴らしい機会です。この発表会を通して、学生達は今年度の活動について振り返ることが出来るだけでなく、次の目標に向かうモチベーションにも繋がります。

開催日時　2020年2月10日（月）12:30〜16:30
開催場所　北九州市立大学本館 A-101

今年も421Lab.から16のプロジェクトが集まり、アワード形式で発表会を開催しました。大学生以外にプロジェクトの受入先や地域の方々にも参加して頂き、盛大な発表を行うことが出来ました。

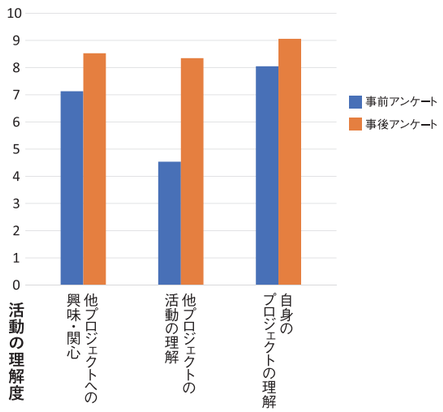
発表会では、各プロジェクトを「Aグループ」「Bグループ」「Cグループ」の3つのグループに分け、参加学生だけでなく来賓の皆様にも参加して頂き、審査投票によってグループごとにアワードを決定しました。学生自身の活動を振り返るだけでなく、他プロジェクトの活動について学ぶ良い機会となりました。

参加学生からのコメント

◆他のプロジェクトのことを知ることが出来たのはもちろんですが、改めて自分の所属するプロジェクトの活動を振り返る良い機会になりました。自分たちの活動を客観的に見ることが出来て、来年度へのモチベーションが高まりました。

◆今回の地域活動発表会を通して、この1年間の自分の振り返りをきちんとすることが出来ました。他のプロジェクトの活動内容を知ることができて、どんなことをしているかなど詳しく知ることで、更に自分も頑張ろうと思いました。

地域活動発表会参加者の活動理解の変化



副センター長からのコメント

実は私は421Lab.を当初から知っている唯一の人となってしまいました。そこで、一つ言いたいことがあります。皆さんは活動を「やってあげている」状態になってしまってはいないでしょうか。そうではなく、自分の成長や地域の方々との繋がりを大事にしながら活動に取り組むことがとても大切です。

今回、学生の皆さんの発表を聞きました。どの発表もとても素晴らしかったと思います。学生達が、一生懸命活動に取り組む姿が映し出されていました。今日の発表を通して、今までの活動を振り返り、次の目標に向かって大変なこともあると思いますが、頑張ってください。応援しています。

地域共生教育センター 副センター長　坂本 毅啓

発表会当日の様子

学生手作りの
オープニング動画から発表会がスタート

内田センター長の挨拶

工夫を凝らした学生の発表

会場の様子

受入先からのコメント

協賛企業の方にプレゼンターを
務めていただいた表彰式

各グループ 受賞プロジェクト

Aグループ

**地域クリーンアップ
プロジェクト**

この１年間北九州市の様々な場所で活動してきました。それにより、その地域特有の課題が見えてきた気がします。次年度は、自分たちだけでなく、市民の方々や企業の方々と協力して、この課題の解決に向け努力していきたいと思います。

Bグループ

『食』から学ぼうプロジェクト

今年度は例年通りの足原ピッコロ(子ども食堂)や食べ物健康ランド、マイ弁当デーのイベントの実施に加えて、給食訪問など新しい試みも行うことが出来ました。また私たちの活動が北九州市健康づくり活動表彰にて評価されたことは大きな実績だと思います。来年度はより発展した「食まな」の活動ができるように、工夫していきたいです。

Cグループ

**防犯・防災プロジェクト
（MATE's）**

今年度は、活動を通して得た学生の成長を活動の幅を広げることや質の向上につなげることを意識してきました。来年度の目標は地域に根付いた活動をより増やし、より地域の方とのコミュニケーションを深めることです。今回、金賞を頂けたことを励みに今まで以上に活動に力を入れていきたいと思います。

STEP4
Action

振り返り研修・スキルアップ研修

学生個人の成長やプロジェクトの進捗状況を確認するために、定期的に振り返り研修を実施しています。経験したことを単なる出来事や感動だけで終わらせないようにするため、学生運営スタッフが企画から当日の進行まで実施しました。また、今年はスキルアップ研修として学生運営スタッフ、全プロジェクトメンバーを対象に写真講座、1年生を対象にしたパワーポイント講座が開かれました。

前期振り返り研修

【日時】2019年8月22日（木）～9月22日（日） 10:00～11:35

上半期の活動終了後、プロジェクトの進捗状況を確認するための研修を行いました。全プロジェクト合同で実施するのではなく、各プロジェクトの都合の良い日に集まり、研修を実施しました。前半は目的と目標の違いについて学びました。それを踏まえた上で、後半ではプロジェクトごとの、ワークを通しながら前期の振り返りを行いました。

プログラム

時　間	内　容
はじめに 10:00～10:10	①研修説明
前半 10:10～10:20	②目的と目標について説明（10分）
後半 10:20～11:20	③グループワーク（60分）
さいごに 11:20～11:35	④研修アンケートの記入

学生の声（学生アンケートより）

普段は関わる機会が少なかった他のプロジェクトメンバーとも話すことができ、プロジェクト活動についてより理解を深めることができた。

最初から最後までプロジェクト内でじっくり話せたので、いつもよりも深く話し合うことができ、今後どのような活動をしていくかなども話し合えた。

後期振り返り研修

【日時】2019年12月21日（土） 10:00～13:00

後期、1年間のプロジェクト活動を振り返り、自分自身やプロジェクトの成長について振り返りました。プロジェクトメンバー全員でプロジェクト活動について話し合うことで、プロジェクトの現状について把握することができ、地域活動発表会に向けた活動にも繋げることができました。

プログラム

時　間	内　容
はじめに 10:00～10:10	①概要説明
1部 10:10～10:35	②個人ワーク ③プロジェクトワーク（2部）の説明
2部 10:45～12:15	④プロジェクトワーク
さいごに 12:25～13:00	⑤アンケート記入 ⑥終わりの挨拶、諸連絡、地域活動発表会の説明

学生の声（学生アンケートより）

日々の活動を経験だけで終わらせず、きちんとみんなで振り返り、共有する機会を設けてもらったことで、今後の活動に活かすことができそうです。

モチベーションアップにつながったことはもちろん、自分の活動とプロジェクト全体の振り返りができた。

スキルアップ研修

写真講座　【日時】2019年7月10日（水）

地域活動発表会に向けて、活動の様子が伝わる・人の目を引く写真について考えるとともにその知識と技術を学ぶ研修を行いました。SNSなどで「映える写真」が話題となった近年、自分たちのスマートフォンの機能を用いながら、SNSで話題の映える写真についての実践講座を行いました。

パワーポイント講座　【日時】2019年11月29日（金）

1年生を対象にパワーポイント講座を行いました。パワーポイントの基本的な操作方法だけでなく、相手に伝わりやすいスライドの作り方に焦点をあてて講座を行いました。

2019年度
トピックス
1

モンゴルフィールドスタディ

現地での活動内容

8月11日　（移動）福岡 ⇒ 釜山 ⇒ ウランバートル 到着
8月12日　首都ウランバートルにて３大学の学生合流、
事前学習の成果発表、
モンゴル科学アカデミー生物学研究所研究員による環境講義を受講
8月13日　中央県郊外で自然観察、研究者による解説
生物多様性保護センター訪問
8月14日　（移動日）
8月15日　ウブルハンガイ県自然博物館見学、遊牧民環境保護団体長とガンダン寺
住職に聞き取り調査
8月16日　自然観察ふりかえり
8月17日　遊牧民のご家庭訪問、
インタビュー調査、移動
8月18日　活動成果発表会の準備
8月19日　モンゴル日本センターにて活動成果発表会
8月20日　（移動）ウランバートル ⇒ ソウル ⇒ 福岡　帰着

スケジュール

本プログラムは事前学習、現地学習、事後学習（報告）の3つの段階を経て実施しました。
1．事前学習（2019年6月～現地出発まで、計3回）モンゴルと北九州の公害の歴史について学習、リスク管理研修の受講
2．現地学習（2019年8月、10日間）
3．事後学習（報告）（2019年9月～2020年3月）
学内 学長報告、授業「環境ESD入門」で発表
学外 モンゴル・雲南フィールドスタディプログラム成果報告会（大阪大学）で発表
成果報告書の発行

モンゴルの大自然と遊牧文化に触れつつ、現地の環境問題や課題について学び、改善策を提言する副専攻環境ESDプログラムです。2019年に初めて実施され、大阪大学（7名）、モンゴル国立大学（3名）、北九州市立大学(3名)の学生が参加しました。現地ではモンゴル科学アカデミー生物学研究所や遊牧民環境保護団体、モンゴル国立大学法学部内日本法教育研究センターのご協力のもとで、環境の調査と報告をおこないました。モンゴル国環境省に活動成果を報告した際には、絵本を通した環境教育や日蒙合同清掃活動など具体的かつ継続可能な取り組みを提案しました。

参加学生のコメント

地域創生学群 2年　尾澤 あかり

地域実習などで体験型学習に参加したことはありましたが、モンゴルフィールドスタディでは特に体験的に学ぶことができたと思います。

モンゴルで気づいたことは２つあります。ひとつは、都市部の繁栄と地方の大自然とのギャップです。首都ウランバートルは水道やガスなどインフラが整っていました。高層ビルが隣接し、道路では渋滞もみられました。しかし、少しでも都市を離れると、電波やインターネット環境がない大自然が広がっています。ふたつ目は、自然と人のかかわりです。それを強く感じたのは草原の中で一際目立つゴミの存在でした。私は地域共生教育センターの「地域クリーンアッププロジェクト」で街の清掃活動を行っているので気づいたことかもしれませんが、モンゴルにもゴミ問題があったことに驚きました。フィールドでの学びを今後の清掃活動に活かしていきたいですし、もう一度モンゴルに行きたいです。

経済学部 2年　平良 慎太郎

今回は私にとって初めての海外滞在でした。モンゴルでは自分が生まれ育った環境とは異なる価値観、文化を持つ人々と交流できました。

私の環境意識も変わりました。以前の私は「人間は自然環境を保護すべきだ」という考え、つまり人間と環境は互いに交わることのない別個の概念であると無自覚に思っていました。

しかしモンゴルの雄大な自然や伝統的な遊牧生活に触れるなかで、人間が自然環境を守る／守らないという話ではなく、人間は自然環境の一部であって、共生がひとつの倫理であると理解しました。

一方でモンゴルでは人的要因によって自然環境が破壊されていることも知りました。遊牧文化をはじめ先人達から受け継いできた人と自然の共生関係は未来に残していかなければいけないと感じました。

地域創生学群 2年　渡部 胡春

世界を広く捉えたい、色んな人の人生に触れてみたいと思い、モンゴルフィールドスタディに参加しました。現地では自然と共に暮らす人々と、かけがえのない仲間たちに出会いました。

まず、モンゴルの人たちは人間同士のつながりや生き物を大切にしていました。川の水を額につけて自然に対して感謝の気持ちを表したり、羊の肉は骨に近い部分まで丁寧にいただいていました。もしかして今の自分は「命をいただく」ことに慣れ過ぎてしまっているのではないかと日頃の生活を改めて見直すきっかけになりました。

今回は大阪大学、モンゴル国立大学の学生と一緒に取り組んだフィールドスタディでした。異なる考えを持つ彼らと意見を交わし、寝食をともにした思い出は忘れません。「共に同じ志を持って、様々なことに取り組んでいきたい」と思える仲間との出会いは私の財産です。

2019年度
トピックス
2

レディスハトヤとのコラボイベント
東京ガールズコレクション（TGC）in 北九州

スケジュール

8月21日	顔合わせ、今後のスケジュールと作業内容の確認
9月 3日	店頭でモデルさん4人分の衣装と小物をピックアップ
9月12日	コーディネートの決定
9月17日	小物の決定
9月23日	観客用プレゼントづくり
10月 5日	TGC北九州（西日本総合展示場）のリハーサルと本番に参加、モデルさんの服装最終チェック

（準備およびリハーサルの段階で西日本新聞社の取材が入りました。イベント終了後は成果報告書を作成しました。）

株式会社レディスハトヤ（以下、レディスハトヤ）と北九州市立大学でTGC北九州合同イベントを実施しました。参加学生は8名でした。まず毎年1万人を超える観客と同じ目線に立って、モデルさんが身に付ける衣装やアクセサリーを決めました。また、レディスハトヤでは小物やアクセサリーの制作、モデルが会場で観客に配布する手土産づくりにも取り組みました。ファッションやコーディネートの基礎はもちろん、大舞台の裏側の仕事に携わり、ファッション業界の一面も学ぶことができました。

参加学生のコメント

地域創生学群 3年　佐藤 樹

最初の顔合わせから本番まで本当に貴重な経験をさせていただきました。特に洋服選びでは色のメリハリや小物の大きさ、全体のバランスが大切であることを体験を通して学ぶことができました。また機会があれば、今回学んだ楽しさと難しさを思い出しながら活動に取り組みたいです。

外国語学部 2年　杉本 美月

「ファッションショー」と聞くと「魅力的なモデルさん」と「最先端のファッション」という漠然としたイメージがありましたが、実際に衣装選びをしたり、ショーのリハーサル、本番を見学させていただいたことでファッションショーをより客観的、商業的にみることができました。ひとつのショーをより良いものにするため、多くの人の見えない努力があることも実感し、感動しました。

地域創生学群 3年　津野 詩音

私は今回が2回目の参加でした。レディスハトヤさんのステージを再び担当できたことは嬉しかったですが、悔しさも残りました。「ステージを作る意識」、「全体の一貫性」が大切であり、ステージを観察、分析すれば、カメラに映りやすい、目に留まりやすい部分、きれいに見える質感があることを学びました。学生間でコミュニケーションを積極的にとり、活発な議論ができていれば、もっと良いステージに仕上がったかもしれません。

2019年度
トピックス
3

ひびしんニューリーダー会 例会開催

スケジュール

2019年11月21日

●例会（場所：本館A-101教室）

18：00	受付開始
18：30～19：00	ニューリーダー会セレモニー（瞑想、ニューリーダー会会長挨拶、ひびき信用金庫代表挨拶、報告、要旨説明、企業紹介）
19：00～19：05	学生挨拶、趣旨説明
19：05～19：15	地域共生教育センター概要説明
19：15～19：50	地域共生教育センタープロジェクト紹介（事例発表:防犯･防災プロジェクト、国際交流プロジェクトFIVA、子ども食堂応援プロジェクト、東日本『絆』プロジェクト）
19：50～19：55	集合写真撮影

●懇親会（場所：本館地下バーラー）

20：05～20：20	乾杯の挨拶（副会長）、自己紹介
20：20～20：55	フリータイム
20：55～21：00	閉会の言葉（会長、地域共生教育センター長）
21：00	解散

2019年11月21日午後、ひびしんニューリーダー会（※）と地域共生教育センターの合同例会が初めて開催されました。今回は若手経営者約30名、学生運営スタッフ約35名が集まりました。例会の前半ではまずニューリーダー会の趣旨、理念とものの考え方三原則のほか参加企業が紹介され、学生運営スタッフより組織と各プロジェクトについて説明が行われました。後半は懇親会が開催され、参加者全員で食事を楽しみながら自己紹介や情報交換を行いました。

（※）ひびしんニューリーダー会とは、福岡ひびき信用金庫取引先の若手経営者が集う勉強会のこと。

参加学生のコメント

地域創生学群 2年　有村 佳奈琉

本例会の企画リーダーを務め、私自身が一番成長することができたと感じています。地域共生教育センター学生運営スタッフとひびしんニューリーダー会の会員様が交流するのは今回が初めてでした。本番を迎えるまではどうすればいいか考え続けました。何をするかーから考え、アイデアが出るたびに教員に相談する。この作業の繰り返しでしたが、準備の段階から学ぶことが多かったです。「地域共生教育センターをうまく伝えるにはどうすればよいか？」、「どうすれば学生と企業を繋げることができるか？」日頃あまり考えることがなかったためとても悩みましたが、同時にとても楽しかったです。

例会後、参加学生からは「未来の選択肢が増えてすごくためになった。参加して良かった。」「経営者の皆さんに私たちの活動が認められたため自信がついた。今後の活動も頑張れる。」といった感想が寄せられました。本当にリーダーを担当して良かった！と思いました。

インフォメーション型地域活動の紹介

私が活躍できる場所、みつけました

421Lab.では、1日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。
その中のいくつかの活動は、学生が長いスパンで関わり、
受入先の方との関係を築きながら活動を行っています。
学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

田川飛翔塾

田川地域の次代を担う人材を育成するために、毎年開催されている「田川飛翔塾」に学生メンターとして参加しました。他大学の学生達と共に35名の中学生達と5日間にわたって講義やグループワークを通して活動する中で、中学生から自分自身が多くのことを学ばせてもらいました。

法学部3年　阿波 裕恵

青少年ピースフォーラム派遣団

私が爆心地にほど近い長崎市の出身だったことから、このボランティアの話を聞いたときは自分にしかできない活動だと思いました。元気いっぱいの市内の小中学生達と事前学習から活動報告会まで深く関わることができ、外（北九州）から改めて平和について考えさせられました。

地域創生学群2年　西村 豪大

竹取伝説

放置竹林の問題に興味を持ち、竹林整備の活動に参加しました。竹を切り、それを荷台に運ぶといった力作業で大変でしたが、学生以外にも年配の方、さらには留学生と様々な人たちと交流することができ楽しかったです。また、環境問題についてのレクチャーもあり勉強になりました。

文学部1年　宮川 実来

北九州無法松ツーデーマーチ

無法松ツーデーマーチというウォーキング大会のボランティアスタッフをやりました。私は門司エリアの給水ポイントに立って、通過する競技者の方へ水とバナナを手渡しました。皆さん満面の笑みで「ありがとう」と言って受け取ってくださいました。周りから直接感謝を伝えられる素敵なボランティアだと思いました。

経済学部1年　伊地知 里実

先輩へのインタビュー

先輩インタビュー
第4弾

苦労や困難があった中で
プロジェクト活動を継続することが出来たのはなぜか、先輩方にインタビューしました。

経済学部 3年生 東日本『絆』プロジェクト

仲間との意思疎通

前田（まえだ）　ほのかさん

私がリーダーになった年、プロジェクトメンバーの人数が前年に比べて倍ぐらいの人数になり、特に1年生が増えました。1年生と私たち3年生が「同じ目標やモチベーションで活動を行う」ということが難しかったです。私もそうだったように1年生の頃は活動についてはじめはよくわからなかったり、情報共有が上手くいかなかったりと、メンバー全員が同じモチベーションを保ちながら活動していくことが大変でした。

そうした気づきがあったからこそリーダーとして、メンバー1人ひとりの意見に耳を傾けて活動に反映し、全員が参加しやすい環境づくりを心掛けることで、同じモチベーションで活動できたと思っています。

食を通じてボランティアできるということに興味を持ってはじめた活動でした。実際は誰にでも身近な食を通して被災地の風化防止について考えることのできる貴重なプロジェクトだと誇りに思っています。今後もメンバー全員のモチベーションを大切に続けていければ良いなと思います。

法学部 3年生 子ども食堂応援プロジェクト

周りからのサポート

佐々木（ささき）　凛（りん）さん

私が子ども食堂応援プロジェクトを継続することができた理由の一つに「周りからのサポート」が挙げられます。2年生の時、私はリーダーをしていました。北九州市と共同で本学にて開催された「北九州子ども食堂学生サミット」では、私が登壇しなければならず、プロジェクト全体の準備まで十分に手が回りませんでした。そんな時、周りのメンバーがサミット全体の準備を担ってくれました。今思うと、リーダーとしてしっかりできておらず、周りに助けられてばかりだったように思います。こうした経験ができたからこそ、周囲に頼ることの大切さを感じることも出来ましたし、私も周りのことを気にかけるようになりました。

ぜひ、後輩たちには、活動していく中で一人だけが頑張るのではなく、周りの皆が積極的に活動に参加して、相互に助け合うといった関係を築き、もっといいプロジェクトへと成長させていってほしいと思います。

経済学部 3年生 地域クリーンアッププロジェクト

立場が変われば、役割も変わる

吉松（よしまつ）　優花（ゆうか）さん

私が活動を継続できた理由は、自分が主体となって活動していく立場にあることを実感したからです。私は1年生の頃、先輩方に言われたことをやってきました。しかし、学年が上がり後輩が入ってきた際に、参加する側のままではいられない、自分たちが引っ張っていかなくてはならないという気持ちに変わりました。

私自身、引っ張っていく立場になってから、活動の課題が見えてくるようになり、その一つが「活動のマンネリ化」ということに気づきました。そこで、馬島清掃の他にも定例の清掃活動の機会を増やしたり、「ふれあいのタベ」というお祭りで出店したりとプロジェクトでできる活動の幅を広げ、メンバー全員の活動に対する意欲を高めようと心掛けました。

今後もプロジェクトの皆には、メンバーを上手く引率し、モチベーションを引き出していけるよう活動に取り組んでいって欲しいです。

経済学部 3年生 青空学プロジェクト

自分たちの「やりたい」を形に

岩切（いわきり）　広優（こうゆう）さん

私がプロジェクトを継続してこれた理由の一つに、環境に主軸を置いて毎年異なるテーマにチャレンジしてきたことが挙げられます。また、青空学プロジェクトは、少人数体制で活動しています。私の代では特に人数が少なく、プロジェクト存続の危機もありました。しかし、少人数だからこそ、全体で話し合い、その年ごとに決めたテーマにチャレンジできるという魅力を武器に、活動を継続してきました。

例えば、ある年は「東田サスティナブル国際会議」の運営に携わり、環境分野で活躍する市内の高校生たちが活躍できる場を企画したり、またある年は放置竹林の整備とその竹を利用した楽器作りを行い「エコライフステージ」で演奏を披露したりといったメンバーのやりたいと思ったことを形にしています。

プロジェクト活動を通して、毎年違うテーマに取り組めるので、多くの方々と関わる機会も増え、苦手としていた人とのコミュニケーションも積極的に行えるようになりました。プロジェクトを通して、成長できることもたくさんあります。これからも自分たちの「やりたい」を大切に活動を邁進していって下さい。

私たちが取材しました！

今回の取材から、先輩方の活動に対する姿勢や思いを垣間見ることができました。
先輩方の強い言葉から今日の成長に繋がっているのだと思います。
私たちも先輩方の姿を目標に活動を続けていきたいと思います。

取材者	
文学部	1年　大串 奈々美
地域創生学群	1年　大楠　千晶

REGION × STUDENTS

地域と学生を掛け合わせたら何が生まれるのか。今回は、国際交流プロジェクト FIVA(Fukuoka International Volunteer Association) について取り上げ、受け入れ先の１つである北九州 YMCA 学院 (以下、YMCA) の谷崎さん、留学生の王さん、プロジェクトメンバーの田中さんに、活動に対する想いを語っていただきました。取材当日は FIVA の活動日で、その合間にお時間をいただき、話を伺いました。

―初めに、FIVA の活動に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

王さん：最初日本に来たばかりの時、日本について何も知りませんでした。なので、日本人の友達を作りたいと思ってこの活動に参加しました。

田中さん：日本で外国の方と英語や日本語を通じて交流できるところに魅力を感じました。留学をしなくても外国の方と関われる機会があるのはとても貴重なことなので参加しようと思いました。

谷崎さん：北九州 YMCA 学院にはアジアを中心に 400 名以上の留学生が在籍し、日本語の勉強をしていますが、日常生活で日本人と接する機会が少ないという現状があります。特に同年代の方と関わることが少ないため、この活動を通して同年代の日本人との交流を行うようになりました。これからの時代、職場でも日常生活でも外国人と共にすることが当たり前の多文化共生世界がますます広がります。その中で、今後留学生が日本で最も関わるようになるのは同年代の日本人です。そのため、留学生と大学生がこの活動を通してお互いを理解し認め合うことで多文化共生社会が促進され、また、活動を継続することで多文化共生社会を促進できる人を増やしていきたいと考え、この活動を始めました。

―この活動の中で大変なことは何ですか？

王さん：大変なことは、日本語が上手く話せないので、伝えたい意味と伝えた言葉が全然違うことがあることです。しかし、皆さんが優しいので理解しようと努めてくれます。また英語も少し話せるので、英語を使ってコミュニケーションをとることもあります。

田中さん：さまざまな国の留学生がいらっしゃるので、宗教的に何を食べることができるのか・できないのか、ベジタリアンではないか、事前にリサーチしますが、一緒に食事をするときには細かく注意を払う必要があることです。

谷崎さん：お互いに積極的にかかわることができるかどうかで、活動での充実度が変わります。
交流の時間は限られていますので、スタートからお互いに積極的にかかわることでより多くの異文化理解ができ、違う国の友人もでき、とても充実した時間を過ごすことができると思います。その結果、「また会いたいな。もっと話したいな。」など、次回が楽しみになると思います。

―実際に参加してみて、活動してよかったことはありますか？

王さん：みんな優しくて、最初は日本語が上手じゃなかったけれど、頑張って私の話を聞いて返事をしてくれました。ありがたかったです。

田中さん：YMCA さんとの交流では日本語で話すことが多いのですが、私達の話すテンポとか、日頃使う言葉だとやはり難しくて理解してもらえないことが多いので、いかにやさしい日本語を使って相手が理解してくれるかを意識して話すことができます。また、英語を使ってコミュニケーションをとる際、私達の英語も伝わらなかったり、相手の英語を私たちが理解できなかったりとかよくあります。しかし、いかに自分たちなりの英語力を使って話せるかという積極性が得られました。

谷崎さん：留学生のみなさんは同年代の日本人の考え方や感覚などを知ることができ、自国の文化や自分の考え方や感覚と比較することで、日本や日本人の理解ができるようになりました。

活動の様子・留学生と楽しくおしゃべり。

―今後の展望は何ですか？

王さん：日本人の友達は多ければ多いほどいいですし、活動すればするほど日本語もだんだん喋れるようになると思います。また、日本人だけではなくてほかの様々な国の人たちもこの活動を通して友達が作れるので、今後もイベントを探したいと思います。

田中さん：私たち FIVA と YMCA の方々の交流はよくあるのですが、私たちの目標設定でもある「地域と外国の方をつなぐ」ということがあまりできていないので、今後は地域の方と YMCA の方と私達で活動ができたらいいなと思います。

谷崎さん：多くの方にご参加いただき、お互いに良い友情を作りながら多文化共生社会を促進していきたいと考えています。

profile

たにざきりょうた
谷崎 亮太さん
出身：北九州
趣味：食べ飲み歩き

おうみんじょ
王旻如さん
出身：台北
趣味：音楽鑑賞
映画鑑賞

たなかみく
田中美玖さん
出身：北九州
趣味：食べ歩き

インタビュアー
編集者
樹村　祐希
(経済学部１年)
吉崎　朱音
(経済学部１年)

取材日
2019 年 12 月 14 日
@ 北九州市立大学

「地域につながる 自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年４月に北九州市立大学に誕生した『421Lab.（地域共生教育センター）』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し、学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。こういった活動に取り組むことで､学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までにはなかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab. にはセンターの運営を支えている「学生運営スタッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートすることで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみたい」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第１歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、421Lab. 広報誌「Lab.Times+」の制作、イベントでの出展 PR などを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。

「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成 (学生への教育効果) 等の観点から以下の４つのタイプに分けて、学生への周知や活動の広報などを行っています。

また、これらの地域と連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

プロジェクト型

地域社会への貢献（地域課題の解決など）が果たされ、学生への教育的配慮（学生指導）のある比較的中長期にわたって取り組む活動。

●421Lab.学生運営スタッフプロジェクト

学生提案型

学生が主体的に取り組み、地域社会への貢献が目的である活動。

●国際交流プロジェクト FIVA
●食べる国際貢献プロジェクト TFT
●学生・いぬねこを守る会

マッチング型

地域活動での体験やレクチャーを通して、活動の目的・趣旨を深く理解できる教育的配慮ある活動。学生へ募集情報を紹介し、地域団体と学生のマッチングを行います。

●防犯・防災プロジェクト【MATE’s】　●東日本『絆』プロジェクト
●ハッピーバースデープロジェクト　●キャンパスSDGsプロジェクト
●『食』から学ぼうプロジェクト　●地域クリーンアッププロジェクト
●青空学プロジェクト　●「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
●オープンキャンパスプロジェクト
●キャリアセンター広報誌「キャリアーナ」プロジェクト
●JOB×Project　●子ども食堂応援プロジェクト
●桜丘小学校学習支援プロジェクト　●「平和の駅運動」プロジェクト
●三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト「Clear」

インフォメーション型

利用規約（421 Lab.のホームページ参照）の項目を満たす地域活動において、掲示版やメールにて学生へ情報提供を行います。
学生と地域団体が直接やり取りを行う活動です。

●インフォメーションの一覧は、P44参照

地域共生教育センターの歩み

- 2010.4.1　地域共生教育センター設立
- 2010.4.21　地域共生教育センター開所式
- 2010.9　広報誌「FULL」創刊
  第二回北九州学生プレゼン大会で「会頭賞」（最高賞）を受賞
- 2011.3.11　東日本大震災が発生
- 2011.4.21　東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2012.3　ふくおか共助社会つくり表彰（福岡県）地域貢献活動部門賞を受賞
- 2012.10.10　登録学生数が1000名を達成
- 2013.2　ふくおか地域つくり活動賞を受賞
- 2013.7.11　防犯・防災ボランティアプロジェクト
  福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.3.23　東日本大震災関連プロジェクト「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2014.7.11　防犯・防災プロジェクト
  福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.1.23　第三回地域活動発表会（大学教育再生加速プログラムフォーラム）
- 2016.2.10　防犯・防災プロジェクト
  福岡県小倉南警察署長より感謝状受賞
- 2016.4.1　緊急時災害支援チーム発足
- 2016.4.14　熊本地震が発生
- 2016.5.2~5　熊本地震災害支援 第一次派遣
- 2016.5.28~6.26　熊本地震災害支援 第二次派遣（計五回実施）
- 2016.7.14　熊本地震派遣学生報告会
- 2016.10.1　防犯・防災プロジェクト
  福岡県防犯協会連合会会長と福岡県警生活安全部長より表彰
- 2016.10.21　防犯・防災プロジェクト
  北九州市長より安全・安心に関する活動団体表彰
- 2016.10.8~10　平成28年度公立大学全国学生大会（L-NZK +OOOs）運営
- 2016.11.27　ふくおか地域つくり活動賞を受賞
- 2017.2.14　第四回地域活動発表会（大学教育再生加速プログラムフォーラム）
- 2017.7.5　九州北部豪雨が発生
- 2017.7.15~17　九州北部豪雨支援 第一次派遣
- 2017.8.5~8　九州北部豪雨支援 第二次派遣
- 2017.11　「平和の駅運動」プロジェクト
  ふくおか地域つくり活動賞を受賞
- 2018.3　緊急時災害支援チーム「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2018.12.25　ふくおか共助社会つくり表彰（福岡県）地域貢献活動部門賞を受賞
- 2020.1.16　「食」から学ぼうプロジェクト
  北九州市健康つくり活動表彰
  市長賞（地域団体部門）受賞

地域につながる小さな一歩

インフォメーション型の地域活動

イベントの当日スタッフやスポーツ大会ボランティアなど、短期の活動を紹介し、多くの学生が地域につながる第一歩を進めました。
2019年度は47の活動に280名が参加しています。

名　称	受入・連携団体	参加のべ人数
オリンピック築上町英語ボランティア	築上町教育委員会	5
無法松酒造英語ボランティア	無法松酒造有限会社	1
母子寮学習支援活動	子ども家庭局子育て支援課	6
小倉南区子どもまつり	小倉南区子どもまつり実行委員会	4
アルクエスト in 北九州	NPO ネオギャラクシー	5
子どもひまわり学習塾	北九州市教育委員会	2
キッズチャレンジスポーツ大会ボランティア	北九州陸上クラブRiC	2
福岡カタリ場	一般社団法人ピープラス	1
日本語ボランティア教育支援	小倉中央小学校	2
ハロハロカフェ・ミニプレイパーク説明会	コラボラ学生部	1
ONOC事前キャンプボランティア	みやこ町役場　行政経営課	6
生き生き子ども講座	421Lab. 運営・北方市民センター	53
オープンキャンパス当日スタッフ	北九州市立大学　広報入試課	81
アコルデ音楽ボランティア	アコルデ事務局	10
関門海峡花火大会ボランティア	関門海峡花火大会実行委員会	6
夏休みの子ども学習サポート	城野市民センター	3
北九州からあげ王座決定戦2019	北九州からあげ王座決定戦実行委員会	2
北九州焼き鳥フェスティバル2019	北九州焼き鳥フェスティバル実行委員会	5
プロフットサル運営（ボルクバレット北九州）	ウブンドゥFSプロモーション	2
まつりみなみ2019	まつりみなみ実行委員会	2
水かけまつり	水かけまつり実行委員会	5
夏の怪！あなたの知らない世界（夜の昆虫採集）	私たちの未来環境プロジェクト	1
北九州無法松ツーデーマーチ	北九州無法松ツーデーマーチ実行委員会	10
九州キッズコレクション	九州キッズコレクション実行委員会	2
初心者向けスマートフォン教室	いきがい活動ステーション	4
平成竹取伝説	北九州ビオトープネットワーク研究会	1
うさぎちゃんライブラリー	おもちゃライブラリー	1
元気塾	北方市民センター	1
大里赤煉瓦縁日2019	大里赤煉瓦	1
京町「千の灯り」	京町「千の灯り」	2
元気塾	421Lab.	1
ときめきスポーツ大会	県民生活部スポーツ振興課	2
初心者向けスマートフォン教室	いきがい活動ステーション	4
おためしラボ「あそぼうさい」	421Lab.	2
グリーンパーク一日ピクニック	一粒の会	6
食習慣改善教室	北方校区食生活改善推進委員	13
2019 ヤングサンタ	一般社団法人北九州青年経営者会議	2
世代交流人権フェスティバル	徳力地域交流センター	2
国際車椅子バスケボランティア	北九州市障害福祉ボランティア協会	1
ギラヴァンツ北九州ホームゲーム応援ボラ	㈱ギラヴァンツ北九州	1
関門海峡キャンドルナイト	門司港キャンドルナイト実行委員会	5
エコライフステージ2019	エコライフステージ実行委員会	4
少年支援室学習ボランティア	北九州市子ども総合センター	1
北九州ポップカルチャーフェス2019	北九州市産業経済局MICE推進課	2
志徳団地ふれあい餅つき大会ボランティア	志徳団地	4
足原のぞみ苑餅つきボランティア	足原のぞみ苑	2
春ヶ丘ランニングクラブ	春ヶ丘ランニングクラブ	1
合　計		280

2019年度地域共生教育センター活動記録

	会　議				研　修		広　報				
	地域共生教育センター会議	地域共生教育センター運営部会	事務局会議	学生運営スタッフ会議	学生研修	運営スタッフ研修	facebook更新回数	Lab. Times＋	活動メール配信	出前授業	他大学等による視察
4月			第1回4/9 第2回4/16 第3回4/23	第1回4/10 第2回4/17 第3回4/24	3/23～4/4 継続者向け研修		1回		4/4 4/12 4/16 4/23		
5月	第1回 5/21 (メール会議)		第4回5/7 第5回5/14 第6回5/21 第7回5/28	第4回5/8 第5回5/15 第6回5/22 第7回5/29	5/11 スタートアップ研修	5/8 新入生向け勉強会	2回		5/8 5/15 5/21 5/23	5/18 長行小学校防犯アカデミー	
6月	第2回 6/12 (メール会議)		第8回6/4 第9回6/11 第10回6/18 第11回6/25	第8回6/12 第9回6/19 第10回6/26			1回		6/12 6/18 6/28	6/1 横代防災チャレンジ	
7月	第3回 7/24 (メール会議)		第12回7/2 第13回7/9 第14回7/16 第15回7/23 第16回7/30	第11回7/3 第12回7/10 第13回7/17 第14回7/24	7/25 リーダー会	7/10 写真講座	2回	vol.5	7/2 7/10 7/16 7/17 7/23 7/25 7/31	7/2 高蔵小地域安全マップづくり 7/2、4　7/9、11 広徳小学校給食交流 7/6 萩ヶ丘市民センター あそぼうさい	
8月	第4回 8/28 (メール会議)		第17回8/6	第15回8/26		8/22～9/22 前期振り返り研修	1回		8/1 8/7 8/19	8/28 尾倉子ども食堂防犯教室	
9月			第18回9/3 第19回9/24	第16回9/27		9/3～9/5 LINKtopos	1回		9/10 9/17 9/20 9/27	9/18 西門司小地域安全 マップづくり	
10月	第5回 10/16 (メール会議)		第20回10/1 第21回10/8 第22回10/15 第23回10/29	第17回10/4 第18回10/11 第19回10/18	10/12 後期スタート アップ研修		1回		10/2 10/4 10/10 10/17 10/23 10/24 10/31	10/5 花房小学校あそぼうさい	
11月	第6回 11/15 (メール会議)		第24回11/5 第25回11/12 第26回11/19 第27回11/26	第20回11/1 第21回11/8 第22回11/15 第23回11/22 第24回11/29		11/29 パワポ講座	2回	vol.6	11/5 11/13 11/21 11/22 11/27	11/19 中島小地域安全 マップづくり 11/26、28、29 広徳小食べ物・健康ランド	
12月	第7回 12/5 (メール会議) 第8回 12/18 (メール会議)		第28回12/3 第29回12/10 第30回12/24	第25回12/6 第26回12/13 第27回12/20	12/21 後期振り返り研修		1回		12/4 12/9 12/17	12/10 徳力小平和と祇園太鼓 12/13 桜丘小大学生活紹介	
1月	第9回 1/16 (メール会議) 第10回 1/22 (メール会議)		第31回1/7 第32回1/14 第33回1/21	第28回1/10 第29回1/24			2回		1/24	1/11 北小倉防災訓練 1/15 富野小大学生活紹介	1/21 札幌大学
2月	第11回 2/14 (メール会議)		第34回2/4 第35回2/25			2/10 地域活動 発表会	0回		2/13	2/22 あそぼうさい 2/25 西小倉小で平和学習	
3月	第12回 3/13 (メール会議)	第1回 3/10	第36回3/10				0回				

パブリシティリスト

2019年度 地域共生教育センター（421Lab.）に関するパブリシティリスト（主な取材掲載記事・報道情報）

掲載日	媒体名	内　　容	プロジェクト名
2019年 6月 5日	読売新聞朝刊	留学生とスポーツで交流	国際交流プロジェクト FIVA
2019年 6月25日	西日本新聞朝刊	桃太郎像が結ぶ交流	平和の駅運動プロジェクト
2019年 7月28日	毎日新聞朝刊	「原爆の火」CF達成	平和の駅運動プロジェクト
2019年 7月 6日	西日本新聞朝刊	北九大で豪雨犠牲者追悼	被災地を写真でつなぐ実行委員会
2019年 7月13日	毎日新聞朝刊	「原爆の火」リレー資金難	平和の駅運動プロジェクト
2019年 7月13日	毎日新聞朝刊	留学生ら　日本文化体験	国際交流プロジェクト FIVA
2019年 8月16日	毎日新聞朝刊	長崎で平和訴え小倉祇園太鼓	平和の駅運動プロジェクト
2019年 8月27日	西日本新聞朝刊	小倉祇園太鼓　不戦の響き	平和の駅運動プロジェクト
2019年10月 4日	西日本新聞朝刊	学生10人　TGC演出挑戦	津野さん、佐藤樹さん
2019年10月 5日	朝日新聞朝刊	子ども食堂　犬と親しむ	学生・いぬねこを守る会 子ども食堂応援プロジェクト
2019年11月 4日	西日本新聞朝刊	鉄の絆釜石から	東日本『絆』プロジェクト
2019年11月 9日	毎日新聞朝刊	細く長く災害支援	東日本『絆』プロジェクト
2019年11月24日	西日本新聞朝刊	環境意識の向上へ「エコライフ」開幕	青空学プロジェクト
2019年12月14日	西日本新聞朝刊	事故防止マナー徹底を	防犯・防災プロジェクト

新聞記事

留学生とスポーツで交流

北九大生 大縄跳びなど楽しむ

北九州市立大生と市内の外国人留学生が交流するスポーツイベントが、同大北方キャンパス（小倉南区）で開かれた。約60人の学生たちが親交を深めた。

国際交流に関心を持つ同大生のグループ「国際交流プロジェクト FIVA」が、2016年から毎年開いている。5月25日のイベントでは、北九州YMCA学院（小倉北区）で日本語を学ぶ中国やベトナム、モンゴルなどの留学生が参加し、1分間で大縄跳びを跳んだ回数を競ったり、ドッジボールで対戦したりして楽しんだ。

18年4月に来日したというベトナム人の[redacted]は「初めて参加したが、日本人学生は親切で楽しかった」と笑顔だった。

大縄跳びで交流する北九州大生と留学生

▲令和元年6月5日（水）読売新聞朝刊　国際交流プロジェクト FIVA

小倉祇園太鼓 不戦の響き

北九大の学生、長崎で演奏

終戦から74年を迎えた15日、北九州市立大の学生らでつくる「太鼓と平和を考える学生連絡協議会」のメンバー9人は、長崎市岡町の市原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂前で、小倉祇園太鼓を打ち鳴らし、犠牲者を悼んだ。

米軍は当初、2発目の原爆を小倉市（現北九州市）に投下する計画だったが、悪天候のため長崎に変更したとされる。太鼓での慰霊は「北九州市民として、原爆犠牲者を追悼する使命と責任がある」として、協議会が2010年から終戦記念日に続けている。

メンバーは、平和を広く訴えるため、北九州から長崎までの約230キロを6日間の自転車リレーで走破。八女市星野村で燃え続けている広島原爆の残り火を「平和の灯」として携え、この日、平和公園の慰霊碑にともした。

同大3年の伊藤雄太会長(20)は「かつてシュガーロードと呼ばれた長崎街道を、平和街道として定着させたい」と話した。（大淵龍生）

長崎原爆の犠牲者を悼み、小倉祇園太鼓を披露する北九州市立大などの学生たち

▲令和元年8月27日（火）西日本新聞朝刊　平和の駅運動プロジェクト

子ども食堂 犬と親しむ

ドッグセラピーが一緒に

北九州

子どもの貧困対策や居場所作りなどの役割を果たす「子ども食堂」。そこに、犬との触れ合いを通じて心を癒やす「ドッグセラピー」を採り入れた試みが北九州市で始まった。訪れた人同士が、犬をきっかけにコミュニケーションをとったり一緒に食事したりする交流の場を目指している。

夕食を食べる子どもたち。にぎやかな話し声が食卓にあふれた

犬を通じて、子どもたちの間に会話が生まれていった＝いずれも北九州市小倉北区

「かわいい」「フワフワ」。9月27日の夕暮れ時、小倉北区片野3丁目の「かたのだ子ども食堂」で、トイプードルを抱いた子どもたちが歓声を上げた。北九州モノレールの片野駅のすぐそばに立つ小さなビル。その2階に子ども食堂はある。普段は犬と触れ合えるカフェとして営業し、毎月の最終金曜日に子ども食堂に変身する。運営するのはNPO法人「ドッグセラピージャパン」で、[redacted]はこのカフェとビルの1階にあるペットショップの店長でもある。

思いやり・癒やし 感性育んで

会話弾み笑顔

これまで、店で飼育している犬を連れて高齢者施設を訪問し、利用者が犬と触れ合う機会を作るなどしてきた。「子どもたちにも、犬と触れ合い癒やされながら、思いやりや命の大切さを知ってほしい」。近年、子ども食堂が増えてきていることを知り、7月下旬にオープンさせた。

中学生以下100円、高校生以上300円で参加でき、この日は、近隣の小中学校に通う子ども17人がやって来た。共働きの両親が夕食作りに大変という子や、犬を飼いたいがマンション住まいで難しいという子もいた。

初対面同士が多かったが、犬と触れ合ううちに笑顔になり、子犬が近寄ると「わー、ちっちゃいね」とはしゃぎ合うなどして会話を弾ませた。犬の扱いに不慣れだった子も、自然と両手で包み込むように抱くようになった。

「手をよく洗ってね」。子どもたちは1時間ほど犬と遊んだ後、[redacted]の呼びかけで夕食に。この日のメニューは野菜たっぷりのカレーライスとコンソメスープ。食事中も笑顔があふれ、ニンジンが苦手という子も残さずに食べた。初めて参加した小学2年、[redacted]は「カレーがおいしくて食べ過ぎちゃった。楽しかったのでまた来たい」と話した。

地域が関わる

運営には地域の大人たちが関わる。NPOスタッフのほか、ボランティアや北九州市立大の学生らが犬との接し方や勉強を教えてくれる。夕食で出た米とフルーツ牛乳は、[redacted]の知り合いの業者が提供した。

子ども食堂に関する情報提供や衛生管理の研修などのため、市が立ち上げた「子ども食堂ネットワーク北九州」の[redacted]は「子ども食堂は貧困対策だけでなく、地域の人と顔見知りになり、つながりを持てる場所でもある。犬と触れ合い感性を育てられる点で貴重」と語る。

かたのだ子ども食堂は食材を提供してくれる人をさらに募っている。体に良い食材を使い「食育」にも力を入れたいという。紙芝居などで命の大切さについて伝えることも考えている。

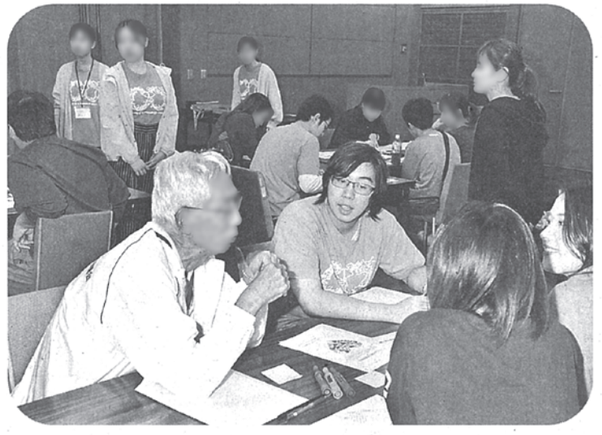
[redacted]は「ワンちゃんの癒やしと栄養ある食事で、心と体が満たされる場所にしたい。地域のコミュニティーづくりも担っていけたら」と話している。

（布田一樹）

▲令和元年10月5日（日）朝日新聞朝刊
学生・いぬねこを守る会
子ども食堂応援プロジェクト

北九大生の東日本「絆」PJ 精力的に活動

全国で災害が相次ぐ中、東日本大震災（2011年3月）を機に結成された北九州市立大生の災害ボランティアグループ「東日本『絆』プロジェクト（PJ）」が精力的に活動している。近年は熊本地震や九州北部豪雨の被災地などに入り、今年は初めて北九州で防災イベントを開いた。学生は毎年入れ替わるが「災害支援は息長く続けることが大事」と今後も地道に取り組むつもりだ。【奥田伸一】



防災イベントで実施した震災遺構に関するグループワーク。松下さん（中央）ら学生が司会を務めた

細く長く災害支援

熊本地震や九州北部豪雨の被災地入り

10月27日に戸畑区であった福祉大会の防災イベント。主催の市社会福祉協議会から活動を評価されたPJは、企画と運営を任され、グループワークを実施した。テーマは「震災で損壊した建物（震災遺構）を記憶継承のために残すべきか。それとも撤去した方がよいか」。

来場者20人が4班に分かれて班ごとに意見を交わし、「複数の遺構を1カ所に集約して残す」「悲しい体験を思い出すので撤去する」などと発表した。司会を務めた2年生の松下信吾さん(19)は「被災地に行かなくても、災害に対する理解を深めることはできる」と意義を語った。

風化 忘れずに

PJは、11年9月に当時の学生17人が「東日本大震災関連プロジェクト」として宮城県南三陸町を訪れたのが始まり。同町には16年3月まで計10回入って災害復旧や高齢者支援に携わった。

その後、現名称に変更し、北九州や他地域での活動が中心に。16年の熊本地震で被災した益城町や17年の九州北部豪雨で被害が出た朝倉市を訪れ、住民と交流した。北九州では岩手県沖で取れたイカを使った「絆焼うどん」を販売し、義援金として積み立ててきた。

現在の会員は1～3年生の20人。3年の前田ほのかさん(21)は9月に岩手県釜石市で開かれたイベントに卒業生らと出店し、義援金約16万6000円を釜石市長に手渡した。

10月末まで代表を務めた前田さんは「災害に関する活動は、細く長く続けることが人々の意識を高めるために大切だと思う。活動の原点である東日本大震災の風化防止を忘れず、他の災害支援にも取り組んでいけたら」と語る。

▲令和元年11月9日（土）毎日新聞朝刊
東日本『絆』プロジェクト

学生と地域活動を希望される皆さまへ

地域の「チカラ」が必要です

事故防止 マナー徹底を

昨年全国ワースト 小倉・湯川交差点

DJポリスが注意呼び掛け

年末の「交通安全県民運動」（31日まで）に合わせて、昨年の交通事故発生件数が全国最多だった小倉南区湯川2丁目の湯川交差点に、「DJポリス」が登場し、交通マナーの徹底を訴えた。同交差点では今年1月に新しい信号機を導入して以降、事故が急減しているが、年末は飲酒運転などが増える傾向があるとして注意を呼び掛けた。

北九州市立大3年、阿波裕恵さん(21)が10日、小倉南署の一日警察署長を務め、DJポリスとして同署の女性署員2人と交代でマイクを握った。阿波さんらは「事故は朝や夕方の通勤通学の時間に多く発生します」などとドライバーや通学中の小中学生に訴えた。

同交差点は国道10号と県道がY字状に交わる変則5差路で、同署によると、昨年1年間に18件の人身事故が発生。一般社団法人「日本損害保険協会」の集計では全国の交差点で件数が最も多かった。今年1月、「右折車両分離信号」を導入した結果、今年の交通事故件数は11月末時点で3件に減った。

同署の橋本慎一交通課長は、年末には重大な交通事故や飲酒運転が増えるとして「危険を予測する『かもしれない運転』を心がけてほしい」と訴え、阿波さんは「『自分は大丈夫』と思う気持ちが事故のもとです」と呼び掛けた。（白波宏野）

DJポリスとして、通行人らに注意を呼び掛けた阿波裕恵さん(左)

昨年事故が多発した湯川交差点

▲令和元年12月14日（土）西日本新聞朝刊
防犯・防災ロジェクト

お申し込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域とつながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。下記の流れに沿って地域活動の募集をお受けしていますので、ご不明な点は下記のURLをご参照いただくか、お電話またはメールにてお問い合わせください。

https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/application02.html

1.お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆さまは、一度、421Lab.へお越しいただき募集内容などをご相談ください。

↓

2.活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせてお持ちください。提出いただいた資料を基に、活動のタイプを検討させていただき、チラシ・HPなどで周知します。

↓

3.学生募集

掲示板、ウェブサイトなどにて周知します。また、相談に来た学生には学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。プロジェクト型の活動については説明会にて活動概要のご紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。

↓

4.マッチング

【プロジェクト型、マッチング型】（長期型）
学生からの申し込みがありましたら日程調整等のご連絡をさせていただきます。地域活動の内容確認や調整させていただきます。
【インフォメーション型】（短期型）
421Lab.もしくは地域活動を希望する学生より直接ご担当者へご連絡いたします。

↓

5.地域活動

プロジェクト型、マッチング型では活動に取組む前に事前学習を行います。活動の理解を深めるために取り組み背景や活動趣旨、留意点などのレクチャー、専門的技術や知識に関する講座などをお願いします。
また、活動を振り返る発表会や反省会の実施などをお願いいたします。